学術的、技術的、対外的活動調査票

1.対外発表や特許出願等について

	<u> </u>	夜で付計山限寺に ブロ							
	Ij	目 目	平成 14年度	平成 15年度	平成 16年度	平成 17年度	平成 18年度	平成 19年度	合計
受賞等		0 件	0件	0 件	0 件	0件	0 件	0 件	
		論文数	0件	1件	13 件	12 件	15 件	8 件	49 件
論文	国内	うち査読論文	0 件	1件	8 件	10 件	11 件	4 件	35 件
	海加	論文数	0 件	1 件	3 件	2 件	4 件	5 件	15 件
	海外	うち査読論文	0 件	1 件	3 件	2 件	4 件	5 件	15 件
 口頭発表		国内発表	0 件	10 件	27 件	47 件	65 件	33 件	182 件
口頭兜衣 		海外発表	0 件	0 件	0 件	2 件	15 件	6 件	23 件
		国内出願	0 件	5 件	3 件	14 件	8 件	4 件	34 件
特許出	出願	外国出願	0 件	0 件	0 件	0 件	1 件	0 件	1 件
		特許取得済件数	0 件	0 件	0 件	0 件	1 件	0 件	1 件
展示	会等	出展件数	0 件	3 件	4 件	4 件	6 件	5 件	22 件
掲載/放映		—————————— 雑誌掲載	0 件	0 件	0 件	1 件	6 件	0 件	7 件
(採払	沢記事	新聞掲載	0 件	10 件	6 件	21 件	26 件	7 件	70 件
	<)	テレビ放映	0 件	1 件	0 件	2 件	1 件	8 件	12 件
		文部科学省関係事業	0 件	0 件	0 件	0 件	1件	3 件	4 件
	業への	経済産業省関係事業	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	1 件	1件
展開		その他の省庁関係事業	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
		自治体単独事業	0 件	2 件	0 件	0 件	2 件	2 件	6 件
実用化			1 件	1 件	0 件	2 件	1件	0 件	5 件
商品值	七		0 件	0 件	1 件	0 件	2 件	0 件	3 件
起業化 成果発表会			0 件	0 件	0 件	1 件	1 件	0 件	2 件
			0 回	3 回	3 回	3 回	4 回	2 回	15 回
		国内団体	のべ	のべ	のべ	のべ	のべ	のべ	のべ
	T / 文科		0 件	7件	3 件	13 件	15 件	13 件	51 件
		海外団体	のべ	のべ	のべ	のべ	のべ	のべ	のべ
	ᄼᄉ		0 件	0 件	0 件	0 件	1 件	4 件	5 件
参考		受賞した賞名:							
支員した員名: 支員した員名: 著名な掲載雑誌名:月刊				週刊文春					

2. 地域 COE の状況について

	平成 14年度	平成 15年度	平成 16年度	平成 17年度	平成 18 年度	平成 19 年度	累計
	2機 <u>関</u> 3社					7 <u>機</u> 関 _11社	_5 <u>0機関</u> 60社
上記企業のうち,既存事業以外の新規 事業に進出するために参加した企業数	0社	0社	0社	0社	0社	0社	0社
本事業の実施により設置された研究会 数	0件	0件	0件	1件	1社	1社	3件
共同研究参加企業以外で研究会に参加 している企業数	0社	0社	0社	0社	0社	0社	0社

学術的実績 [様式9]

(論文)

	年度	論文名	掲載誌名(巻、号、頁)	著者名	備考
1	15	播種・株植が不要なアマモ移植方法の 現地試験	土木学会海岸工学論文集 1 編	上野成三 (大成建設㈱)	
2	15	Estimation of light requirement for the growth of Zostera marina in central Japan	FISHERIES SCIENCE 2003;69、890-895	前川行幸、倉島明(以上、三重大学)、他2名	「雇」
3	16	干潟再生の実際~動き始めた三重県 英虞湾再生プロジェクト~	土木施工 2004.7月号	上野成三 (大成建設㈱)	
4	16	混合密度粒に対する各種スキームの 適用性	日本流体力学年会2004講演論文集	木村一郎(松工高専)千葉 賢(四日市大学)	
5	16	英虞湾集水域における汚濁負荷発生に関する点源と面積の調査	四日市大学環境情報論集 (2004.9)第 8巻第 1号、 39-60p	井岡幹弘・千葉賢・武本行正(四日市大学)	「雇」
6	16	英虞湾の海水交換に関する研究 ~ 走行型ADCPを用いた流動観測~	四日市大学環境情報論集 (2004.9)第 8巻第 1号、 1-16p	千葉賢(四日市大学) 奥村 宏征、西川次壽・山形陽一 (以上、三重県)	「雇」
7	16	海底堆積物内の物質循環モデルに関 する基礎的研究	四日市大学環境情報論集 (2004.9) 第8巻第1号、 17-37p	千葉賢(四日市大学)	「雇」
8	16	浚渫ヘドロを活用した干潟再生技術	地質と調査 H16年9月号	上野成三 (大成建設㈱)	
9	16	Development of Sintering Preparation Technology of Porous Materials from Sea Bottom Sediments for Wastewater Treatment	O ·	金子聡・鈴木透・勝又英之・ 太田清久・原田拓也(以上、 三重大学) Ahmed H.A. Dabwan(三重県産業支援 センター)	雇」
10	16	人工干潟の設計資料として整理した 三番瀬干潟における底生生物の出現 特性	土木学会海岸工学論文集 第 51 巻(2004)、1006-1010p	上野成三・高山百合子(大 成建設株)・湯浅城之(三重 県産業支援センター)	
11	16	播種・株植が不要なアマモ移植方法の 最適移植時期について	土木学会海岸工学論文集 第 51 巻(2004)、1181-1185p	上野成三・高山百合子(以上、大成建設株)・湯浅城之 (三重県産業支援センター)・前川行幸(三重大学)	
12	16	英虞湾における浚渫へドロを用いた 干潟造成実験から得られた干潟底質 の最適条件	土木学会海岸工学論文集 第 51 巻(2004)、1191-1195p	国分秀樹・奥村宏征(以上、 三重県) 上野成三・高山百 合子(以上、大成建35株) 湯浅城之(三重県産業支援 センター)	「若」

13	16	COMPACT シリーズによる海洋計測	海洋理工学会平成 16年度秋	小梨昭一郎〔アレック電子	
		器の小型軽量化への取り組み	期大会講演論文集	(株)]	
14	16	Removal of Heavy Metals in Water	ITE Letters on Batteries,	金子聡・鈴木透・勝又英之・	「雇」
		by Adsorption onto Sintering	New	太田清久・原田括他(以上、	
		Porous Materials from Sea Bottom	Technologies,&Medicine,V	三重大学)・Ahmed.HA	
		Sediments	ol.5, No.6(2004)	Dabwan (三重県産業支援	
				センター)	
15	16	Characterization of humic	Photo/Electro chemistry	金子聡・鈴木透・勝又英之・	「雇」
		substances in sea botton sediments	& Photobiology in the	太田清久(以上、三重大学)	
		of Ago Bay, Mie prefecture, Japan	Environment, Energy	他	
		by high performance gel permeation	and Fuel,2005:399-408		
		chromatography			
16	16	Field study on tidal flats	第 4 回日韓干潟ワークショ	上野成三 (大成建設㈱)	
		constructed using muddy dredged	ップ講演集		
		sediment in Ago Bay			
17	16	底生微細藻を用いた底質改善.	瀬戸内海,40,45-49p(2004)	山本民次(広島大学)	
18	16	英虞湾における干潟・藻場の変遷と浅	第 3 回伊勢志摩海洋国際会	国分秀樹・奥村宏征	「若」
		場再生技術	議		
19	17	浚渫ヘドロを利用した干潟再生技術	月刊「環境争化技術」(日本	上野成三 (大成建設㈱)	
			工業出版)2005年4月号		
20	17	三重・英虞湾の干潟再生プロジェクト	「環境技術」(環境技術学会)	上野成三 (大成建設㈱)	
			2005年5月号		
21	17	浚渫ヘドロを用いた干潟再生工法に	海洋開発論文集,第21巻		
		おけるヘドロ混合の設計・施工計画	(2005.7)、885-890 p	野成三・小林峯男 (以上、 大成建3㈱)、国分秀樹・奥	
				田圭一(以上、三重県)	
22	17	英虞湾集水域における汚濁負荷に関	四日市大学環境情報論集第	井岡幹博(四日市大学)	「雇」
		するGISデータの整備	9 巻 1 号	,	
23	17	干潟地形を対象とした地形と底質粒	土木学会海岸工学論文集	湯浅城之(三重県産業支援	「雇」
		度に関する二次元水理実験	第 52 巻 (2005)、436-440p	センター)上野成三(大成	
				建設㈱)	
24	17	酸素飽和度200%の高濃度酸素水	土木学会海岸工学論文集	片倉徳男・上野成三・大谷	
		を発生する装置の開発	第 52 巻(2005)、1116-1120p	英夫(以上、大成建設株)	
25	17	英虞湾における浚渫へドロを用いた	土木学会海岸工学論文集	国分秀樹・奥村宏征(三重	「若」
		大規模造成干潟の底質と底生生物の	第 52巻(2005)、1196-1200p	県科学技術振興センター)	
		特性について		高山百合子 (大成建設株)	
26	17	播種・株植が不要なアマモ移植方法に	土木学会海岸工学論文集	高山百合子・上野誠三 (大	「若」
		おける移植マットの改良とアマモ定	第 52 巻(2005)、1216-1220 p	成建設㈱)湯浅城之(三重	
		着効果		県産業支援センター)前川	
				行幸 (三重大学)	

蔵·加藤忠哉·Ahmed	「雇」
abwan(以上、三重	
業支援センター)	
蔵·加藤忠哉·Ahmed	「雇」
abwan(以上、三重	
支援センター)原田	
日本製紙(株))	
【四日市大学)、山形	「雇」
	「雇」
三里宗住未又抜ビノソ	
· 金子聡・鈴木透	 「雇」
池・太田清久(以上、	/EJ
2.	
-	
ひろ (三重県産業支	「雇」
/ター) 古丸明(<i>三</i> 重	「若」
)	
ひろ (三重県産業支	「雇」
·ター)古丸明(三重	「若」
	「雇」
ソター)	「若」
79-)	「若」
ンター) は (三重県産業支援	「若」 「雇」
,	
之(三重県産業支援	
成之(三重県産業支援 7一)上野成三・高山	
之(三重県産業支援 7-)上野成三・高山 イ・織田幸伸(以上	
之(三重県産業支援 7-)上野成三・高山 イ・織田幸伸(以上、 建設(株))	「雇」
成之(三重県産業支援 アー)上野成三・高山 ア・織田幸伸(以上、 建設(株)) 成之(三重県産業支援	「雇」
	abwan(以上、三重 を支援センター) 蔵・加藤忠は・Ahmed abwan(以上、三重 を支援センター) 蔵・加藤忠は上、原田 を支援を製品では、一、原田 を支援を製品では、一、大田 を大は、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一

38	18	沿岸未利用地への海水導入による環 境再生実験に関する水質シミュレー ション	土木学会海岸工学論文集 第 53 巻 (2006)、 1246-1250p	高山百合子・片倉徳男・上野成三(以上、大成建設株)、 国分秀樹・奥村宏征(以上、 三重県) 湯浅城之・松田治 (三重県産業支援センター)	「若」
39	18	英虞湾の浚渫ヘドロを用いた人工干 潟における潮汐に伴う水質変動の連 続観測	土木学会海岸工学論文集 第 53 巻 (2006)、 1231-1235 p	国分秀樹・奥村宏征(以上、 三重県)高山百合子・上野 成三(以上、大成建3株) 湯浅城之(三重県産業支援 センター)	「若」
40	18	酸素飽和度200%の高濃度酸素水 発生装置を利用した底質浄化効果と 最適放流量の設計方法	土木学会海岸工学論文集 第 53 巻(2006)、 1176-1180 p	片倉徳男・高山百合子・上 野成三(以上、大成建設株) 他 1 名	
41	18	ペーパースラッジ焼却灰を主原料とする底質安定改良材を用いた海洋環境再生技術の開発	紙パルプ技協誌 2006年 9月 第 60巻 第 9号 80-88p	今井大蔵・加藤忠哉・ Ahmed H. A. Dabwan (以上、三重県産業支援セ ンター)	「雇」
42	18	Variation in ¹³ C and ¹⁵ C among different tissues of three estuarine bivalves: implications for dietary reconstructions (河口の二枚貝三種の異なった組織間の ¹³ Cと ¹⁵ Cの変化:餌の再現との関係)	Plankton & Benthos Reseach 1(4) 178-182 p	横山壽・石樋由香(以上、 水産総合研究センター養殖 研究所)	
43	18	マイクロバブル噴流の流動とエアレ ーション特性	日本混相流学会年会講演会 2006講演論文集、33-38p	社河内敏彦・辻本公一・安 藤俊剛(以上、三重大学) 他 2 名	
44	18	浚渫へドロを用いた干潟造成を目的 とした高効率な浚渫底泥脱水技術の 開発	海洋開発論文集、第22巻 (2006)、945-950 p	片倉徳男・上野成三・小林 峯男(以上、大成建設株)・ 今井大蔵 (三重県産業支援 センター)、他2名	
45	18	浚渫へドロを有効利用した人工干潟 再生工法の施工事例	基礎工、Vol.34,No.7,7月号 (2006),36-38 p	藤原靖・片倉徳男 (以上、 大成建設㈱)	
46	18	海底汚泥を原料とした多孔質性焼結 体の製造とその排水浄化への応用	三重大学創造開発研究センター研究報告第 14 号、37-42p	金子聡・勝又英之・鈴木透 太田清久(以上、三重大 学)Ahmed H. A. Dabwan (三重県産業支援センタ ー)	「雇」
47	18	マルチビームソナーを用いたアマモ群落現存量推定法の開発	土木学会海岸工学論文集 第 53 巻 (2)、(2006) 1436-1440 p	奥村宏征(三重県) 浅海茂・森松秀二(以上、古野電気㈱)前川行幸(三重大学)上野成三(大成建設㈱)	「若」

49	18	Overvie of Ago Bay Restoration Projyect Basedon New Concept of "Sato Umi": A Case of Environmental Restoration of Enclosed Coastal Seas in Japan New Technology for Developing Biologically Productive Shallow	1st International Workshop on "environmental Management and Function improvement /restoration technologies for estuaries and c oastal sea regions 2006"pp1-6 1st International Workshop on "environmental	松田治 (三重県産業支援センター) 国分秀樹 (三重県)	「若」
		Area in Ago Bay.	Management and Function improvement /restoration technologies for estuaries and c oastal sea regions 2006 "		
50	18	New Approach for the Integrated Aquaculture Management from the View Point of Multi-functional Role of Fisheries and Aquaculture	Bulletin of Fisheries Research Agency, No.19, pp167-171	松田治 (三重県産業支援センター)	
51	18	沿岸水産海洋学のいま - 内湾域における水産資源の維持と培養に水産海洋学がどこまで寄与できるか	水産海羊研究、70、256-269 (2006)	山本民次(広島大学)他2名	
52	19	Density and distribution of seeds in bottom sediments in Zostera marina beds in Ago Bay, central Japan	Aquatic Botany \ 87(2007) 38-42	森田晃央(三重県産業支援 センター) 奥村宏征(三重 県) 阿部真比古(水産総合 研究センター) 倉島彰・前 川行幸(以上、三重大学)	「蒩」
53	19	Flow Analysis of Micro Bubble Jet Flow by Flow Visualization	Proceedings of The 6th Pacific Symp. On Flow Visualization and Image Processing	藤俊剛(以上、三重大学)	
54	19	セルフデザインによる人工干潟の地 形形成過程に関する二次元水理実験		•	「顧」
55	19	英虞湾の浚渫ヘドロを用いた人工干 潟とアマモ場における底質と底生生 物の変遷		国分秀樹・奥村宏征(以上、 三重県)高山百合子(大成 建設株)湯浅城之(三重県 産業支援センター)	「若」
56	19	干潟の地形・底質粒度の安定化工法に 関する平面水理実験	土木学会海岸工学論文集 第 54 巻 (2007)	湯浅城之(三重県産業支援 センター) 片倉徳男・高山 百合子・上野成三(以上 大成建設㈱)	「雇」

19 未利用海藻の食品への利用(第1報)	57	19			万口 沙 / □美国安兴士短	「顧」
表利用海藻の食品への利用(第1報)		10	央俣河にのける洪後による至糸凹収		-	744
長次 (広島大学) 長次 (広島大学)				(2007年12月刊)	·	
19						
- アマモおよびアナアオサから抽出した不溶性食物繊維の特性とそれらを利用した菓子類の試作 - 二業研究部研究報告 No.31 (2007) 90-93p 三重県)	50	10	未利田海藻の食品への利田(第1報)	——————————————————————————————————————		
した不溶性食物繊維の特性と	36	19	, ,		•	
70.0.31(2007)90-93P 19 超音波処理による海藻の液状化 平成 18年度三重県半学技術 振興センター工業研究部研 究報告,第 31 号,75-77 p (2007) 電力土木 No.332 11月号 片倉徳男・上野成三(大成 連詰別納)村上和男武蔵工業 大学) 19 Taxonomic rearrangement of the genus Ulkenia sensu lato phylogeny based on morphobgy, chemotaxonomical characteristics, and 18S rRNA gene (Thraustochytriaceae, Labyrinthulomycetes): emendation for Ulkenia and erection of Botryochytrium, Parietichytrium, and Sicyoidochytrium gen. 四日市大学環境情報論集第 高橋正昭、井岡幹博、千葉 11巻 1号 35-42 P 第 (四日市大学) 201					二里県)	
振興センター工業研究部研究報告,第 31 号,75-77 p(2007) 60 19 高濃度酸素水の利用による水質浄化 電力士木 No.332、11月号 片倉徳男・上野成三(大成建設佛)、村上和男武蔵工業大学) 61 19 Taxonomic rearrangement of the genus <i>Ulkenia</i> sensu lato phylogeny based on morphology, chemotaxonomical characteristics, and 18S rRNA gene (Thraustochytriaceae, Labyrinthulomycetes): emendation for <i>Ulkenia</i> and erection of <i>Botryochytrium</i> , <i>Parietichytrium</i> , and <i>Sicyoidochytrium</i> gen. 62 19 英虞湾流入河川中の栄養塩の挙動に フいて 四日市大学環境情報論集第 高橋正昭、井岡幹博、千葉 「 11巻 1号 35-42 P 賢 (四日市大学) 63 19 Enrichment of anammox bacteria from marine environment for the construction of a bioremediation 10.1007/s00253-007-124 重大学)				No.31 (2007) 90-93p		
振興センター工業研究部研究報告,第 31 号,75-77 p(2007) 60 19 高濃度酸素水の利用による水質浄化 電力士木 No.332、11月号 片倉徳男・上野成三(大成建設佛)、村上和男武蔵工業大学) 61 19 Taxonomic rearrangement of the genus <i>Ulkenia</i> sensu lato phylogeny based on morphology, chemotaxonomical characteristics, and 18S rRNA gene (Thraustochytriaceae, Labyrinthulomycetes): emendation for <i>Ulkenia</i> and erection of <i>Botryochytrium</i> , <i>Parietichytrium</i> , and <i>Sicyoidochytrium</i> gen. 62 19 英虞湾流入河川中の栄養塩の挙動に フいて 四日市大学環境情報論集第 高橋正昭、井岡幹博、千葉 「 11巻 1号 35-42 P 賢 (四日市大学) 63 19 Enrichment of anammox bacteria from marine environment for the construction of a bioremediation 10.1007/s00253-007-124 重大学) 第個正昭、井岡幹博、千葉 「 2017 3	59	19	切立が加田によった茶の洗料ル	亚代 10年度二美国外兴大学	田代双十八二美国)	
完報告,第31号,75-77p (2007) 19 高濃度酸素水の利用による水質浄化 電力士木 No.332、11月号 片倉徳男・上野成三(大成 建設㈱)、村上和男武蔵工業 大学) 14-116p、(2007) 建設㈱)、村上和男武蔵工業 大学) 19 Taxonomic rearrangement of the genus Ulkenia sensu lato phylogeny based on morphology, chemotaxonomical characteristics, and 18S rRNA gene (Thraustochytriaceae, Labyrinthulomycetes): emendation for Ulkenia and erection of Botryochytrium, Parietichytrium, and Sicyoidochytrium gen. 52 19 英虞湾流入河川中の栄養塩の挙動に フいて 11巻1号 35-42 P 質(四日市大学) 11巻1号 35-42 P 質(四日市大学) で記録に対しています。 19 Enrichment of anammox bacteria from marine environment for the construction of a bioremediation 10.1007/s00253-007-1241 重大学)		10	超音波処理による海藻の液状化			
(2007) 高濃度酸素水の利用による水質浄化 電力士木 No.332、11月号 片倉徳男・上野成三(大成 理証録制)村上和男武蔵工業 大学) 大学) 本多大輔(甲南大学)他 m press). 本多大輔(甲南大学) 他 m press). 本多大輔(甲南大学) 世 上						
60 19 高濃度酸素水の利用による水質浄化 電力土木 No.332、11月号 片倉徳男・上野成三(大成 建設㈱)村上和男武蔵工業 大学) 114-116p、(2007) 建設㈱)村上和男武蔵工業 大学) 本多大輔(甲南大学)他 m press)。 かく Wycoscience 48(6)、(2007, in press)。 本多大輔(甲南大学)他 m press)。 本多大輔(甲南大学) 他 m press)。 本多大輔(甲南大学) で 以 に が は に 対 に が は に 対 に が は 東記利郎(以上、三 重大学) 重大学)				•		
Taxonomic rearrangement of the genus Ulkenia sensu lato phylogeny based on morphology, chemotaxonomical characteristics, and 18S rRNA gene (Thraustochytriaceae, Labyrinthulomycetes): emendation for Ulkenia and erection of Botryochytrium, Parietichytrium, and Sicyoidochytrium gen. Taxonomic rearrangement of the genus Ulkenia sensu lato phylogeny based on morphology, chemotaxonomical characteristics, and 18S rRNA gene (Thraustochytriaceae, Labyrinthulomycetes): emendation for Ulkenia and erection of Botryochytrium, Parietichytrium, and Sicyoidochytrium gen. Taxonomic rearrangement of the genus Ulkenia sensu lato phylogeny based on morphology, chemotaxonomical characteristics, and 18S rRNA gene (Thraustochytriaceae, Labyrinthulomycetes): emendation for Ulkenia and erection of Botryochytrium gen. Taxonomic rearrangement of the genus Ulkenia sensu lato phylogeny based on morphology, chemotaxonomical characteristics, and 18S rRNA gene (Thraustochytrium, Parietichytrium, and Sicyoidochytrium gen. Taxonomic rearrangement of the genus Ulkenia sensu lato phylogeny based on morphology, chemotaxonomical characteristics, and 18S rRNA gene (Thraustochytriaceae, Labyrinthulomycetes): emendation for Ulkenia and erection of Botryochytrium, Parietichytrium, and Sicyoidochytrium gen. Taxonomic rearrangement of the genus Ulkenia sensu lato phylogeny has \$\frac{1}{2}\$	60	19		,		
大学) Taxonomic rearrangement of the genus Ulkenia sensu lato phylogeny based on morphology, chemotaxonomical characteristics, and 18S rRNA gene (Thraustochytriaceae, Labyrinthulomycetes): emendation for Ulkenia and erection of Botryochytrium, Parietichytrium, and Sicyoidochytrium gen. 62 19 英虞湾流入河川中の栄養塩の挙動に 四日市大学環境情報論集第 高橋正昭、井岡幹博、千葉 写 (四日市大学) 63 19 Enrichment of anammox bacteria from marine environment for the construction of a bioremediation 10.1007/s00253-007-124 重大学)		10	同/展/支政系小ツ/利用による小貝/刊し		,	
Taxonomic rearrangement of the genus Ulkenia sensu lato phylogeny based on morphology, chemotaxonomical characteristics, and 18S rRNA gene (Thraustochytriaceae, Labyrinthulomycetes): emendation for Ulkenia and erection of Botryochytrium, Parietichytrium, and Sicyoidochytrium gen. 四日市大学環境情報論集第 同橋正昭、井岡幹博、千葉 賢 (四日市大学) 11巻 1号 35-42 P 賢 (四日市大学) 53-42 P 日本大学 54-42 P 日本大学 11巻 1号 35-42 P 日本大学 154-42 P 日本大学 1				114-110μ, (2007)	-	
in press). Tatholium tertaing minimor to genus *Ulkenia** sensu lato phylogeny based on morphology, chemotaxonomical characteristics, and 18S rRNA gene (Thraustochytriaceae, Labyrinthulomycetes): emendation for *Ulkenia** and erection of *Botryochytrium, and *Sicyoidochytrium** gen. 62 19 英虞湾流入河川中の栄養塩の挙動に ついて	61	10		Mycosciones 49 (6) (9007	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
phylogeny based on morphology, chemotaxonomical characteristics, and 18S rRNA gene (Thraustochytriaceae, Labyrinthulomycetes): emendation for Ulkenia and erection of Botryochytrium, Parietichytrium, and Sicyoidochytrium gen. 62 19 英虞湾流入河川中の栄養塩の挙動に 四日市大学環境情報論集第 同橋正昭、井岡幹博、千葉 11巻 1号 35-42 P 賢(四日市大学) 63 19 Enrichment of anammox bacteria from marine environment for the construction of a bioremediation 10.1007/s00253-007-124 重大学)	01	19	O .	3	本多大輔(甲南大字) 他 	
chemotaxonomical characteristics, and 18S rRNA gene (Thraustochytriaceae, Labyrinthulomycetes): emendation for <i>Ulkenia</i> and erection of <i>Botryochytrium</i> , <i>Parietichytrium</i> , and <i>Sicyoidochytrium</i> gen. 62 19 英虞湾流入河川中の栄養塩の挙動に 四日市大学環境情報論集第 高橋正昭、井岡幹博、千葉 了 11 巻 1 号 35-42 P 賢 (四日市大学) 63 19 Enrichment of anammox bacteria from marine environment for the construction of a bioremediation 10.1007/s00253-007-1241 重大学)				in press).		
and 18S rRNA gene (Thraustochytriaceae, Labyrinthulomycetes): emendation for Ulkenia and erection of Botryochytrium, Parietichytrium, and Sicyoidochytrium gen. 62 19 英虞湾流入河川中の栄養塩の挙動に ついて 11巻 1号 35-42 P 賢(四日市大学) 63 19 Enrichment of anammox bacteria from marine environment for the construction of a bioremediation 10.1007/s00253-007-1247 重大学)						
(Thraustochytriaceae, Labyrinthulomycetes): emendation for <i>Ulkenia</i> and erection of <i>Botryochytrium</i> , Parietichytrium, and Sicyoidochytrium gen. 62 19 英虞湾流入河川中の栄養塩の挙動に 四日市大学環境情報論集第 高橋正昭、井岡幹博、千葉 「11巻 1号 35-42 P 賢(四日市大学) 63 19 Enrichment of anammox bacteria from marine environment for the construction of a bioremediation 10.1007/s00253-007-1247 重大学)			,			
Labyrinthulomycetes): emendation for <i>Ulkenia</i> and erection of <i>Botryochytrium</i> , <i>Parietichytrium</i> , and <i>Sicyoidochytrium</i> gen. 62 19 英虞湾流入河川中の栄養塩の挙動に 四日市大学環境情報論集第 高橋正昭、井岡幹博、千葉 「11巻 1号 35-42 P 賢(四日市大学) 63 19 Enrichment of anammox bacteria from marine environment for the construction of a bioremediation 10.1007/s00253-007-1241 重大学)			· ·			
for Ulkenia and erection of Botryochytrium, Parietichytrium, and Sicyoidochytrium gen. 62 19 英虞湾流入河川中の栄養塩の挙動に 四日市大学環境情報論集第 高橋正昭、井岡幹博、千葉 11巻 1号 35-42 P 賢(四日市大学) 63 19 Enrichment of anammox bacteria from marine environment for the construction of a bioremediation 10.1007/s00253-007-124 重大学)			•			
Botryochytrium, Parietichytrium, and Sicyoidochytrium gen. 62 19 英虞湾流入河川中の栄養塩の挙動に 四日市大学環境情報論集第 高橋正昭、井岡幹博、千葉 写 11巻 1号 35-42 P 賢 (四日市大学) 63 19 Enrichment of anammox bacteria from marine environment for the construction of a bioremediation 10.1007/s00253-007-1247 重大学)						
and Sicyoidochytrium gen. 52 19 英虞湾流入河川中の栄養塩の挙動に 四日市大学環境情報論集第 高橋正昭、井岡幹博、千葉 「コルマ 11巻 1号 35-42 P 賢(四日市大学) 63 19 Enrichment of anammox bacteria from marine environment for the construction of a bioremediation 10.1007/s00253-007-1247 重大学)						
52 19 英虞湾流入河川中の栄養塩の挙動に 四日市大学環境情報論集第 高橋正昭、井岡幹博、千葉 11 巻 1 号 35-42 P 賢(四日市大学) 11 巻 1 号 35-42 P 賢(四日市大学) 日本 1 巻 1 号 35-42 P 野(四日市大学) 日本 1 巻 1 号 1 号 1 号 1 号 1 号 1 号 1 号 1 号 1 号						
ついて 11巻 1号 35-42 P 賢(四日市大学) 63 19 Enrichment of anammox bacteria from marine environment for the construction of a bioremediation 10.1007/s00253-007-124 重大学)			and <i>Sicyoldocnytrium</i> gen.			F 产至
Enrichment of anammox bacteria Applied Microbiology and 東冠真紀子、中島潤、木村 from marine environment for the construction of a bioremediation 10.1007/s00253-007-1247 重大学)	62	19	英虞湾流入河川中の栄養塩の挙動に	四日市大学環境情報論集第	高橋正昭、井岡幹博、千葉	「顧」
from marine environment for the construction of a bioremediation Biotechnology (DOI 哲哉、粟冠和郎(以上、三 10.1007/s00253-007-1247 重大学)			ついて	11 巻 1 号 35-42 P	賢(四日市大学)	
construction of a bioremediation 10.1007/s00253-007-1242 重大学)	63	19	Enrichment of anammox bacteria	Applied Microbiology and	粟冠真紀子、中島潤、木村	
			from marine environment for the	Biotechnology (DOI	哲哉、粟冠和郎(以上、三	
reactor 7)			construction of a bioremediation	10.1007/s00253-007-1247	重大学)	
			reactor	7)		
64 19 Development of the high Asian and Pacific Coasts 片倉徳男・上野成三・高山	64	19	Development of the high	Asian and Pacific Coasts	片倉徳男・上野成三・高山	
concentration dissolved oxygen 2007、2136-2147p 百合子(以上、大成建設株)						
discharge system with more than 村上和男(武蔵工業大学)			***	•		
200% of oxygen saturation water.			9 0		,	

^() 備考欄の「顧」は、筆頭著者が雇用研究員の場合、「若」は、筆頭著者が35歳以下の場合を示す。

(口頭発表)

No	年度	発表テーマ名	学会名等	発表者名	備考
1	15	石膏系中性固化材による地磐改良技術の現 状と課題	資源·素材学会 秋季大 会 2003	大澤誠司・佐々木謙一 (以上、石原産業株) 田辺和康(福山大学)	
2	15	播種・株植が不要なアマモ移植方法の現地 実験	土木学会第50回海岸 工学講演会	上野成三・高山百合子 (以上、大成建設株)、 前川行幸(三重大学)、 原条誠也(英虞湾再生 コンソーシアム)	
3	15	共同研究事業の全体計画	英虞湾の再生を考える シンポジウム2004	加藤忠哉 (三重県産業 支援センター)	
4	15	干潟再生実験	"	上野成三(大成建設株))	
5	15	アマモ場再生実験	"	前川行幸(三重大学)	「雇」
6	15	英虞湾自動観測システム	11	千葉賢 (四日市大学)	「雇」
7	15	英虞湾自然再生事業の展開方策について	11	松田治 (三重県産業支援センター)	
8	15	浮体構造物を内部に配したケーソン式海水 交換型防波堤の波力に関する 実験的研究	平成 15年度 土木学会中部支部研究発表会	,	
9	15	浚渫土を用いた人工干潟造成における適正 混合割合と底生生物との関係	第38回日本水環境学会年会	国分秀樹・奥村宏征(以上、三重県)、上野成三(大成建設㈱)、原条誠也(英虞湾再生コンソーシアム)	「若」
10	15	海草アマモ幼体の光合成 温度特性	第28回日本藻類学会大会	前川行幸・倉島彰・ 阿部真比古(以上 三 重大学)	「雇」
11	16	非接触センサーによる殻体運動測定技術の 開発-4 Heterocapsa circularisquama の低細胞 密度暴露に対するアコヤガイの殻体運動応 答	平成 16 年度日本水産 学会大会	永井清仁・郷譲治(以上、株)ミキモト、山下裕康・宅野弘行(以上、株)東京測器研究所)、金大一(三重県産業支援センター)、本城凡夫(九州大学)	
12	16	酸化鉄系環境浄化材の重金属不溶化能	第10回 地下水・土壌汚 染とその防止対策に関 する研究集会		
13	16	水域環境再生技術	日本環境倶楽部「環境 セミナー」	上野成三(大成建設株)	
14	16	アマモの無菌播種と初期培養	第2回 日本植物細胞 分子生物学会大会	橋爪不二夫・山本有子 (以上、三重県)	
15	16	混合密度流に対する各種スキームの適用性	日本流体力学会年会 2004	木村一郎(松工高専)、 千葉賢(四日市大学)	
16	16	海底汚泥から生成した焼結体による水質浄 化	第23回分析化学中部 夏季セミナー	金子聡・勝又英之・ 鈴木透・太田清久 (以上、三重大学)	「雇」

17	16	保水性を高めた人工干潟における底生生物	土木学会第59回年次	高山百合子・上野成三	「若」
		の出現特性	学術講演会	(以上、大成建設株)、	
				国分秀樹 (三重県)	
18	16	英虞湾の干潟再生事業	第2回土木施工技術	上野成三(大成建設株))	
			研修会(主催:日本土		
			木工業協会 中部支部)		
19	16	COMPACTシリーズによる海洋計測器の小型	海洋理工学会 平成16	小梨昭一郎 (アレック	
		軽量化への取り組み	年度秋季大会	電子(株))	
20	16	人工干潟の設計資料として整理した三番頼	土木学会 第51回海岸	高山百合子、上野成三	「若」
		干潟における底生生物の出現特性	工学講演会	(以上、大成建設株)	
		1 7,3512 35 15 35 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20	1 1 H3// C	湯浅城之(三重県産業	
				支援センター)	
21	16	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	土木学会 第51回海岸	湯浅城之(三重県産業	 「雇」
- '		移植時期について	工学講演会	支援センター)、高山	「若」
		1夕恒時期に フリー	工于确决云	百合子・上野成三(以	ΉЈ
				上、大成建設㈱)、前	
				川行幸(三重大学)	
22	16	 英虞湾における浚渫ヘドロを用いた干潟造	土木学会 第 51 同海岸	国分秀樹・奥村宏征(以	「若」
22	10	成実験から得られた干潟底質の最適条件	工学講演会	上、三重県)、高山百	石」
		が天秋がり待りれた下海は貝の取過水件	上于 碑决云		
				合子·上野成三(以上、	
				大成建設㈱)、湯数城	
				之(三重県産業支援セ ンター)	
			**************************************	,	
23	16				雇」
		び光合成硫黄細菌による硫化水素の除去	会中部支部会	援センター)	「若」
24	16	干潟シミュレーターを用いた干潟浄化能	第39回日本水環境学	中野陽一・西嶋渉・岡	
		の評価	会年会	田光正(広島大学)、崔	
				盛喆(三重県産業支	
				援センター)	
25	16	高機能性人工干潟造成技術の開発	海洋環境産業創出フォ	国分秀樹 (三重県)	「若」
			ーラム		
26	16	英虞湾のヘドロの有効利用と干潟造成	志摩町真珠養殖所会	国分秀樹 (三重県)	「若」
27	16	浚渫土を用いた人工干潟と形態別の天然	日本水環境学会	国分秀樹 (三重県)	「若」
		干潟に生息する底生生物の特徴について			
28	16	 閉鎖性海域における環境創生プロジェクト	平成 16 年度研究成果	加藤忠哉(三重県産業	
20	10		平成 10 平皮顺九成来 発表会	加藤心成(二 <u>里元年末</u>) 支援センター)	
29	16	│ │沿岸環境創生技術の開発	光仪云	前川行幸 (三重大学)	「雇」
					/匡」
30	16	底質改善技術の開発 	"	太田清久(三重大学)	
31	16	環境動態シミュレーションモデルの開発	"	千葉賢 (四日市大学)	「雇」
32	16	┃ ┃地域と連携するCOEのために	"	松田治(三重県産業支	
				援センター)	
33	16	 英虞湾における干潟の消失と人工干潟造成	英虞湾の再生を考える	国分秀樹 (三重県)	「若」
		大俣/51Cの1737/607月大C人工下海の以 	シンポジウム 2005		
34	16	英度流のファ	<i>II</i>	奥村宏征 (三重県)	「若」
		英虞湾のアマモ			
35	16	環境モニタリングシステムの観測データか	"	千葉賢 (四日市大学)	「雇」
		ら見出された英虞湾の海洋特性		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	·
<u></u>					

36 16 英虞湾の環境再生のための住民と行政の協	大学) モト) (三重 「雇」 ター) 混産業 「雇」)
37 16 「浮遊系 - 底生系相互作用」研究の重要性 日本水産学会水産環境 山本民次(広島が保全委員会研究会「沿岸海洋生態系を包括的に考える:浮遊生態系と底生生態系の相互作用」 38 17 貝リンガルによる2004年夏季の英優湾 下成 17年度日本水産 京井清仁(株)ミキにおける Heterocapsa Circularisquama 学会大会 赤潮の監視 39 17 英虞湾における自然と人工干潟の底泥酸素 平成 17年度日本水産 県産業支援センター 17 英虞湾における海底酸素消費速度の現定 学会大会 東彦における海底酸素消費速度の現場則 平成 17年度日本水産 原口浩一(三重県定 学会大会 東後センター 17 底生微細藻およびその生息環境としての浅 平成 17年度日本水産 山本民次(広島が大会 大会 大	モト) (三重 「雇」 ター) R産業 「雇」)
保全委員会研究会「沿 岸海洋生態系を包括的 に考える: 浮遊生態系 と底生生態系の相互作 用」 38 17 貝リンガルによる2004年夏季の英夏湾 における Heterocapsa Circularisquama 赤潮の監視 39 17 英虞湾における自然と人工干潟の底泥酸素 消費および脱窒速度の測定 40 17 英虞湾における海底酸素消費速度の現場則 定 41 17 底生微細藻およびその生息環境としての浅 平成 17年度日本水産 原口浩一(三重県 支援センター	モト) (三重 「雇」 ター) R産業 「雇」)
	(三重 「雇」 ター) P産業 「雇」)
に考える: 浮遊生態系の相互作用」 38 17 貝リンガルによる2004年夏季の英憲湾 平成17年度日本水産 永井清仁(株)ミキにおける Heterocapsa Circularisquama 赤潮の監視 39 17 英虞湾における自然と人工干潟の底泥酸素 平成17年度日本水産 外部 Patel 学会大会 学会大会 学会大会 学会大会 「現産業支援センター では、17年度日本水産 原口浩一(三重県 学会大会 フィー・フィー・フィー・フィー・フィー・フィー・フィー・フィー・フィー・フィー・	(三重 「雇」 ター) P産業 「雇」)
3817貝リンガルによる2004年夏季の英豪湾 における Heterocapsa Circularisquama 赤潮の監視平成17年度日本水産 学会大会3917英虞湾における自然と人工干潟の底泥酸素 学会大会 学会大会 県産業支援センター で会大会 で会大会 で会大会 できた。4017英虞湾における海底酸素消費速度の現場則 定 学会大会 東産業支援センター で会大会 東援センター4117底生微細藻およびその生息環境としての浅 平成17年度日本水産 山本民次(広島大会)	(三重 「雇」 ター) P産業 「雇」)
3817貝リンガルによる2004年夏季の英虞湾 における Heterocapsa Circularisquama 赤潮の監視平成17年度日本水産 学会大会3917英虞湾における自然と人工干潟の底泥酸素	(三重 「雇」 ター) P産業 「雇」)
38 17 貝リンガルによる2004年夏季の英虞湾 平成17年度日本水産 京井清仁(株)ミキにおける Heterocapsa Circularisquama	(三重 「雇」 ター) P産業 「雇」)
における Heterocapsa Circularisquama	(三重 「雇」 ター) P産業 「雇」)
赤潮の監視 39 17 英虞湾における自然と人工干潟の底泥酸素 平成 17 年度日本水産 Arun Bhai Patel(ター) 具産業 「雇」)
39 17 英虞湾における自然と人工干潟の底泥酸素 学会 大会 県産業支援センター 平成 17 年度日本水産 県産業支援センター 40 17 英虞湾における海底酸素消費速度の現場則 平成 17 年度日本水産 原口浩一 (三重県定 学会 大会 支援センター 東京における海底酸素消費速度の現場則 平成 17 年度日本水産 東田 大会 支援センター 東京における海底酸素消費速度の現場則 平成 17 年度日本水産 東京 東京における海底酸素消費速度の現場則 平成 17 年度日本水産 東京 東京における海底酸素消費速度の現場則 中成 17 年度日本水産 東京 東京における海底酸素消費速度の現場則 中成 17 年度日本水産 東京 東京における海底酸素消費速度の現場則 中成 17 年度日本水産 東京 東京における自然と人工干潟の底泥酸素 学会 大会 東京 東京における自然と人工干潟の底泥酸素 学会 大会 東京 東京における自然と人工干潟の底泥酸素 学会 大会 東京 東京における自然と人工干潟の底泥酸素 学会 大会 東京と関係を表現しています。 東京における自然と人工干潟の底泥酸素 中 大会 東京と関係を表現しています。 東京における海底酸素消費速度の現場 中 大会 大会 東京における事業を表現しています。 東京における海底酸素消費速度の現場である。 東京における海底酸素消費速度の現場である。 東京における海底酸素消費速度の現場である。 東京における海底酸素消費速度の現場である。 東京における海底酸素消費速度の現場である。 東京における海底酸素消費を表現しています。 東京における海底酸素消費を表現しています。 東京における海底酸素消費を表現しています。 東京における海底を表現しています。 東京における海底を表現しています。 東京における場合における場合には、東京により	ター) 具産業 「雇」)
消費および脱窒速度の測定 学会大会 県産業支援センタ 40 17 英虞湾における海底酸素消費速度の現場測 平成 17 年度日本水産 原口浩一(三重県 定 学会大会 支援センター 41 17 底生微細藻およびその生息環境としての浅 平成 17 年度日本水産 山本民次(広島大	ター) 具産業 「雇」)
4017英虞湾における海底酸素消費速度の現場則 定平成 17 年度日本水産 学会大会原口浩一(三重県 支援センター4117底生微細藻およびその生息環境としての浅平成 17 年度日本水産 平成 17 年度日本水産山本民次(広島大	是 産業 「雇」
定 学会大会 支援センター 41 17 底生微細藻およびその生息環境としての浅 平成 17 年度日本水産 山本民次(広島大阪))
41 17 底生微細藻およびその生息環境としての浅 平成 17 年度日本水産 山本民次(広島大	,
	学)
	··· /
42 17 英虞湾における軟弱浚渫土の固化造粒・ア 平成 17 年度日本水産 今井大蔵 (三重県	 産業 「雇」
マモ基盤に関する研究 工学学会学術講演会 支援センター	
43 17 富栄養化した浚渫土を用いた干潟の造成 第25回(台湾)中日 勝井秀博(大成建	-
工程技術検討会	120117)
44 17 安定同位体比からみたアマモ場の食物網 第 4回日本応用藻類学 石樋由香 (水産総	総合研「若」
17 「	
ポジウム	
	<i>□□</i>
43 17	
46 17 播種・株植が不要なアマモ移植方法の実証 第 60 回土木学会年次 高山百合子 (大成	<u> </u>
40 17 1912 176日が「安な」、「これの大説 第 60日エバチスギバ 同田日日] (人の	
	± <i>Π</i> (‡4\\\
│ 47 │ 17 │新規土壌安定改良材を利用した浚渫ヘドロ│第 60 回土木学会年次│ 片倉徳男(大成建 │	直及(1水) /
48 17 干潟地形を対象とした地形と底質粒度に関 土木学会第 52 回海岸 湯浅城之(三重県	
する二次元水理実験 工学講演会 支援センター	_
49 17 酸素飽和度200%の高濃度酸素水を発生 土木学会第 52 回海岸 片倉徳男(大成建	ā文(朴)
する装置の開発 工学講演会 工学講演会	- I - I - I - I - I - I - I - I - I - I
50 17 英虞湾における浚渫へドロを用いた大規模 土木学会第5 2回海岸 国分秀樹(三重	県) 「若」
造成干潟の底質と底生生物の特性について 工学講演会	3 7 2 2
51 17 ペーパースラッジ焼却灰を主原料とする底 平成 17 年度紙パルプ 今井大蔵 (三重県	
質安定改良材を用いた海羊環境再生技術の 技術協会年次大会 支援センター)
開発	
┃52 ┃ 17 ┃浚渫ヘドロを用いた干潟再生工法 ┃国土交通省中国技術事┃片倉徳男(大成建	段株))
平成 17 年度中国地方	
建設技術開発交流会	
53 17 播種・株植が不要なアマモ移植方法におけ 土木学会 高山百合子(大成	な建設 「若」
る移植マットの改良とアマモ定着効果 (株)	
54 17 マルチナロービームの開発と海中モニタリ 第 36 回海中海底工学 浅海茂(古野電気	利株))
ングへの展開 フォーラム	

	4-				F 📥
55	17	有機物分解促進基盤としての人工中層海底 の評価	平成 17年度水産海洋学会	原口浩一 (三重県産業 支援センター)	「雇」
56	17	浅海域浮泥のサイズ別測定の試み	日本水産学会水産環境 保全委員会研究会「内 湾浅海域浮泥の水産環 境保全における重要 性」. 東京都	山本民次 (広島大学)	
	4.7	大東本にもはって日 英田の本画に出日本		ラハチ料 / 二手周が 労	Г -1.1-
57	17	英虞湾における干潟・藻場の変遷と浅場再 生技術	第3回伊勢志摩海洋国際会議	技術振興センター)	「若」 ———
58	17	Suppression technique of harmful algal blooms by light emitting diode (LED), I. Effect of wavelength on the growth of harmful dinoflagellate Heterocapsa circularisquama and diatom Skeletonema costatum	韓国海羊学会 2005 年度秋季学術発表大会	呉碩津 (三重県産業支援センター)	「茬」
59	17	しゅんせつ土を活用して造成した干潟の生 態学的特性	第 40 回日本水環境学 会年会	中野陽一・西嶋渉・岡 田光正 (以上、広島大 学)、石井亮 (三重県産 業支援センター)	
60	17	生態工学に基づく藻場・干潟保全に関する 研究	環境科学会 2005年会	岡田光正(広島大学)	
61	17	発光ダイオードによる有害赤潮の増殖阻害 技術の開発・有害渦鞭毛藻と珪藻の増殖に 及ぼす波長の影響	平成 17年度水産海洋学会	呉碩津 (三重県産業支援センター)	「雇」 「若」
62	17	沿岸域におけるマルチビームソナーの用途 開発と海中モニタリングへの展開	平成 17年度水産工学 関係試験研究推進特別 部会水産調査計測シン ポジウム	浅海茂(古野電気株)	
63	17	酸素消費速度からみた浚渫へドロを用いた 人工干潟の生産力の検討	第 40 回日本水環境学 会年会	国分秀樹 (三重県科学 技術振興センター)	「若」
64	17	硝酸カルシウムによる底質改良効果メカニ ズムの解明	第 40 回日本水環境学 会年会	清水康弘 (三重県科学 技術振興センター)	
65	17	底生微細藻散布による海域有機質底泥浄化 の試み	第 40 回日本水環境学会年会	山本民次(広島大学) 松田治(三重県産業支援センター)他2名	
66	17	英虞湾におけるアコヤガイのろ水率と水温 との関係	平成 18年度日本水産 学会大会	渥美貴史 (三重県科学 技術振興センター)	「若」
67	17	英虞湾におけるアコヤガイの呼吸量と水温 との関係	平成 18年度日本水産 学会大会	増田健(三重県科学技 術振興センター)	
68	17	炭素・窒素安定同位体比による英虞湾立神 浦干潟の食物網解析		石樋由香 (水産総合研 究センター)	「若」
69	17	発光ダイオード(LED)を用いた増養殖場環境改善の試み .底生微細藻 Nitzchia sp.の活用	平成 18年度日本水産 学会大会		「嵟」「若」
70	17	英虞湾浅海域における底生微細藻類の基礎 生産速度	2006 年度日本海洋学 会春季大会	原口浩一(三重県産業 支援センター)	「雇」
71	17	人工中層海底 .人工漁礁を活用した環境 改善システム	平成 18年度日本水産 学会大会	片山貴之(海洋建設株)	
	_				

70	47	一般事 约 和库 2000/ 介 京港庄型表示VXX4-社会	☑ F□ 目〔1) 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	上全⁄年用/ 上 (*7+ ÷/(** /\	
72	17	酸素飽和度 200%の高濃度酸素水発生装置	愛知野学技術交流財	片倉徳男(大成建設株)	
		による水質の浄化	団「自然エネルギーを		
			利用した湖沿・内湾の		
			水質改善技術の開発」		
			研究会		
73	17	資源循環型の干潟造成での利用を目的とし		片倉徳男(大成建設株)	
		た、高効率な浚渫底泥の脱水技術の開発	開発シンポジウム		
74	17	三重県英虞湾における海草アマモの分布状	日本藻類学会第30回	奥村宏征 (三重県)	「若」
		況と現存量	大会		
75	17	浚渫ヘドロを用いた干潟再生工法	国土交通省東北地方整	片倉徳男(大成建設株)	
			備局 平成 17 年度技		
			術発表会		
76	17	海洋性 Anammox 細菌の培養	日本農芸化学会 2006	粟冠和郎 (三重大学)	「雇」
			年度大会		
77	17	干潟造成技術	平成 17 年度研究成果	国分秀樹 (三重県)	「若」
			発表会		
78	17	アマモ場造成技術	"	前川行幸(三重大学)	「雇」
79	17	底泥固化・脱水技術	<i>II</i>	今井大蔵 (三重県産業	「雇」
				支援センター)	
80	17	微細藻類による酸素補給技術	"	原口浩一(三重県産業	「雇」
				支援センター)	
81	17	環境動態シミュレーション	"	千葉賢 (四日市大学)	「雇」
82	17	英虞湾の現状について「英虞湾における干	英虞湾の再生を考える	国分秀樹·奥村宏征(三	「若」
		潟・藻場の消失と浅場再生への取り組み」	シンポジウム 2006	重県)湯浅城之(三重	
				県産業支援センター)	
				上野成三・高山百合子	
				(大成建設㈱)	
83	17	英虞湾の現状について「水質、底質~英虞	英虞湾の再生を考える	増田健(三重県)	
		湾の汚染状況~」	シンポジウム 2006		
84	17	英虞湾の現状について「真珠養殖~今とこ	英虞湾の再生を考える	渥美貴史・増田健・山	「若」
		れから~」	シンポジウム 2006	形陽一(以上、三重果)	
85	17	Sintering preparation technology of po	環太平洋国際会議	原田拓也・金子聡・勝	
		rous materials from sea sediments and	Hawaii, USA	又英之・鈴木透・太田	
		their applications to water purificati		清久(以上、三重大学)	
		on			
86	17	光フェントン反応によるフミン酸の分解	日本化学会第86春季	佐田真希・勝又英之・	
			年会	金子聡・鈴木透・太田	
				清久(以上、三重大学)	
87	18		平成 18 年度日本水産	-	「雇」
		クロコズムモデルから -	学会大会	援センター)	「若」
88	18	人工漁礁を活用した環境改善システム	平成 18 年度日本水産		. –
			学会大会	洋建設㈱)、原口浩一	
			· · - ·	(三重県産業支援セン	
				ター)山形陽一(三重	
				県)山本民次(広島大	
				学)	
		<u> </u>	L	· //	

89	18	有機物分解促進基盤としての評価	平成 18年度日本水産学会大会	原口浩一、松田 治(以上、三重県産業支援センター) 山本民次(広島大学) 片山貴之(海洋建設株) 山形陽一(三重県)	「雇」
90	18	Outline of the Ago Bay Environmental Restoration Project (英虞湾再生プロジェ クトの概要について)	EMECS7	加藤忠哉 (三重県産業 支援センター)	
91	18	The role of Zostera marina on nutrient cycle in the shallow water ecosystem (浅場生態系の栄養サイクルにおけるアマモの役割)	EMECS7	森田晃央 (三重県産業 支援センター)	「茬」「若」
92	18	Dredged sediment applications for making micro-habitat pellets and bases for seagrass germination in Ago Bay, Japan (浚渫汚泥を使用した微生物担体ペレットと海草の育成基盤の開発)	EMECS7	Ahmed H. A.Dabwan (三重県産業支援セン ター)	「雇」
93	18	Numerical Model on the Material Circulation for Coastal Sediment in Ago Bay, Japan (英虞湾沿岸堆積物に関する物質循環の数値モデル)	EMECS7	G. A. Anggara Kasih (三重県産業支援セン ター)	「雇」
94	18	Denitrification oxygen uptake and methanogenesis in natural and artificial tidal flats from Ago Bay, Japan: Rate measurements and regulating factors (英虞湾の天然干潟、人工干潟における脱室、酸素消費、メタン生成:速度測定と規定要因)	EMECS7	Arun Bhai Patel(三重 県産業支援センター)	「雇」
95	18	New technology for developing biologically productive tidal flat with use of muddy dredged sediment in Ago Bay, Mie prefecture, Japan (英虞弯の浚渫底尼を使用した生物生産的な干潟の開発の新技術)	EMECS7	国分秀樹(三重県)	「若」
96	18	Development to a new method for recovering <i>Zostera</i> bed in cooperation with fisherman (漁師と協力した、アマモ場を回復する新しい方法の開発)	EMECS7	前川行幸(三重大学)	「雇」
97	18	Development of Three-Dimentional Hydrodynamic and Ecosystem Numerical Model for Ago Bay (英虞湾における三次元 流動モデルと生態系数値モデルの開発)	EMECS7	千葉賢 (四日市大学)	「雇」
98	18	Environmental Monitoring System of Ago Bay (英虞弯の環境モニタリングシステム)	EMECS7	千葉賢 (四日市大学)	「雇」
99	18	Application of benthic microalgae for remediation of eutrophic sediments in a semi-enclosed bay	EMECS7	山本民次 (広島大学)	

100	18	The evaluation of purification in a tidal flat using tidal flat simulator		中野陽一(宇部高専、 前広島大学)西嶋渉、 岡田光正(以上、広島 大学)石井亮(三重 県産業支援センター)	
101	18	英虞湾の環境の現状と改善への取り組みについて	東海地域生物系先端技 術研究会平成 18年度 第1回セミナー	山形陽一(三重県科学 技術振興センター)	
102	18	DGGE analysis of batch culture of ammonia-oxidizing and denitrifying microbial community composition in the marine sediment of Ago Bay. (英虞湾内底泥におけるアンモニア酸化、硝化脱窒細菌群集のバッチ培養によるDGGA分析)	International seminar on coastal environment and utilization of fisheries resources (於:フィリピン大学ヴィサ ヤス校)	中野みよ (三重県産業 支援センター)	「雇」
103	18	A Model of carbon and Nutrient Cycling in the Sediment of Ago Bay Coupling of the Benthic System and Reaction of Early Diagenesis (英虞湾海底性積物中の炭素と窒素の循環モデル(ベントスモデルと生物化学的有機物分解モデルの結合)	International Conference on Ecological Modeling (生態モデリング国際 会議 2006)	ター)	「雇」
104	18	浚渫土を利用した干潟の造成	2006 年日本プランク トン学会・日本ベント ス学会合同大会	石井亮 (三重県産業支援センター)	「崔」「若」
105	18	浚渫土を用いた人工干潟・藻場の造成技術	第 30 回水環境フォーラム山口	中野陽一 (宇部工高 専、前広島大学)、西 嶋渉・中井智司・岡田 光正 (以上、広島大 学)、石井亮 (三重県産 業支援センター)	
106	18	マイクロバブル噴流の流動とエアレーション特性	日本混制流学会年会講演会 2006	社河内敏彦・辻本公 一・安藤俊剛 (以上 三重大学)	
107	18	英虞湾における干潟再生事例:浚渫土を用いた人工干潟の特徴と物質循環機能	日本水産学会水産環境 保全委員会 平成 18 年度研究会「水産環境 保全にとっての干潟再 生の意義」	㈱) 湯戋城之(三重県	「若」
108	18	高生残系統アコヤガイの作出 - 閉殻力による選技効果と赤変病との関連性について -		石川卓・岡本ちひろ(以上、三重県産業支援センター)、古丸明(三重大学)	「若」
109	18	英虞湾における浚渫へドロを用いた干潟造成事例	広島大学 土の堆積環境と形成された地盤の工学的特性との関連性に関するワークショップ	上野成三(大成建設株)	

110	18	英虞湾の干潟・アマモ場の造成技術	自然エネルギーを利用 した湖沿・内湾の水質	上野成三(大成建設株))	
			改善技術の開発に関す る研究会		
111	18	閉鎖性海域の自然再生:英虞湾における地 域結集型の取り組み	自然エネルギーを利用 した湖沼・内湾の水質	松田治(三重県産業支援センター)	
		域和朱宝の取り組の	改善技術の開発に関す		
			る研究会		
112	18	貝殻魚礁による魚礁造成技術 	自然エネルギーを利用 した湖沼・内湾の水質	田原実(海洋建設株))	
			改善技術の開発に関す		
1.10	4.0	W	る研究会		Г-1-1-
113	18	New Technology for Developing Biologically Productive Shallow Area in	河口沿岸域の機能修復 と監理に関する第1回	国分秀樹(三重県)	「若」
		Ago Bay.	国際ワークショップ		
			(韓国安山市)		
114	18	Overview of Ago Bay Restoration Project	河口沿岸域の機能修復		
		Based on the New Concept of "Sato Umi"	と監理に関する第1回 国際ワークショップ	援センター)	
		(新たな「里海」の考え方に基づいた英虞	(韓国安山市)		
		湾再生プロジェクトの全体像)			
115	18	海洋性Anammox細菌の集積培養に関する 研究	第 10 回海洋深層水利 用学会	粟冠和郎 (三重大学) 他	「雇」
116	18	PS焼却灰を利用した固化浚渫土による二	平成 18年度水産学会	今井大蔵・加藤忠哉・	「雇」
		│枚貝増殖を目指した干潟造成研究 │		Ahmed H. A.Dabwan (以上、三重県産業支	
				援センター)	
117	18	PS焼却灰を利用した固化浚渫土による高	第3回新潟食品科学・	今井大蔵・加藤忠哉・	「雇」
		機能人工干潟の造成 	バイオフォーラム	Ahmed H. A.Dabwan (以上、三重県産業支	
				援センター)	
118	18	Stable Isotope Analyses of the Trophics	天然資源の開発利用に	石樋由香・横山壽 (水	「若」
		Structure of Macrobenthos on an	関する日米会議(UJ	産総合研究センター)	
		Artificial Tidal Flat Developed using Sediments from Dredged from	NR)水産増養殖専門 部会		
		Pearl-oyster Farms in Ago Bay	마쯔		
		(英虞湾真珠養殖魚場の堆積物を使用した			
		人工干潟におけるマクロベントスの栄養構造の実際関係体分析と			
119	18	造の安定同位体分析) New Technology for Developing	天然資原の開発利用に	国分秀樹·奥村宏征(三	「若」
		Biologically Productive Shallow Area in	関する日米会議(UJ	重県)	
		Ago Bay	NR)水産増養殖専門		
120	18	(生物生産を向上させる浅場再生技術) Recent Attempt towards	部会 天然資源の開発利用に	松田治(三重県産業支	
		Environmental Resortoration of Coastal	関する日米会議(UJ	援センター)	
		SeasiAgo Bay Restoration Project Based	NR)水産増養殖専門		
		on the New Concept of "Sato Umi" (英虞湾再生に向けた最近の試み:新たな	部会		
		「里海」の考え方に基づいた英度湾再生			
		プロジェクト)			

121	18	理告例とプロジェクトの会体像を何ち日も	立当に対象がはよって	拟四次(二壬间立兴士	
121	10	環境創生プロジェクトの全体像 - 何を目指 しているか -	産学官研究交流セミナ ー「アマモ場再生に向	松田治(三重県産業支援センター)	
		U C (1 a))	一・アマモ場中主に同じ けた英虞湾での取り組	後センター)	
			か」		
122	18	<u> </u>	産学官研究交流セミナ	前川行幸(三重大学)	「雇」
122	10	アマモ場の追放技術 について	産子自研え交流とミナ	別川八千(二里八子)	惟」
			一・アマモ場中主に同じ けた英虐湾での取り組		
			か」		
123	18	 干潟地形を対象とした地形と底質粒度に関	第 53 回海岸工学講演	湯浅城之 (三重県産業	「雇」
123	10	する平面水理実験	会 四海产工于确决	支援センター)	/E J
			·	-	
124	18	酸素飽和度200%の高濃度酸素水発生装		片倉徳男(大成建設株)	
		置を利用した底質浄化効果と最適放流量の	会		
		設計方法			F
125	18	英虞湾の浚渫へドロを用いた人工干潟にお	第 53 回海岸工学講演		「雇」
		ける潮汐に伴う水質変動の連続観測	会	技術振興センター)	「若」
126	18	沿岸未利用地への海水導入による環境再生	第 53 回海岸工学講演	高山百合子(大成建设	「若」
		実験に関する水質シミュレーション	会	(株))	
4.07	4.0			南县南江(三五月)	Г-1-1-
127	18	マルチビームソナーを用いたアマモ群落現	第 53 回海岸工学講演	奥村宏征 (三重県)	「若」
400	4.0	存量推定法の開発	会		
128	18	三重県地域結集型共同研究事業における研	群馬県地域結集型研究		
		究成果移転事例 	開発プログラム成果報	支援センター)	
400	4.0		告会基調講演	<u> </u>	
129	18	英虞湾の干潟・アマモ場の造成技術	吉野川下流地域地下水	今村聡 (株)大成建设)	
			利用対策協議会・平成		
130	18	┃ ┃プロジェクト進捗状況報告	18年度研究会	加萨中共 / 二手间 克米	
130	18	プロジェクト進捗状況報告 	平成 18年度研究成果 発表会	加藤忠哉 (三重県産業 支援センター)	
101			光仪云	,	F
131	18	環境モニタリングシステムの開発とその利	<i>II</i>	千葉賢(四日市大学)	「雇」
400	4.0	用		南井京在(二手用)	Г- 1,1-
132	18	英虞湾に適したアマモ造成技術	"	奥村宏征(三重県)	「若」
133	18	ペーパースラッジ焼却灰を用いた新規固化	<i>''</i>	江草清行 (㈱あの津技	
404	4.0	剤の開発とLLPの設立		研)	г с ъ
134	18	浚渫固化物を用いた干潟におけるアサリの ct E	"	今井大蔵(三重県産業	「雇」
105	10	成長	"	支援センター)	「☆
135	18	陸域からの負荷の解明	"	井岡幹博(四日市大学)	「雇」
136	18	新技術エージェント報告 	"	松田治(三重県産業支	
107	4.0			援センター)	
137	18	凝集固化剤の開発と応用 	リーディング産業展み		
120	10		え 2006	研)	ΓĖ
138	18	浚渫土を利用した干潟の造成 	平成 19 年度日本水産	`	「雇」 「若」
			学会春季大会	援センター) 中井智 司・西嶋渉・岡田光正	石」
				司・四嶋彦・岡田元正 (以上、広島大学)	
139	18	 汚濁水を瞬時に浄化できる凝集・固化剤の	第63回新技術動向セ		
138	10	汚燭水を瞬時に挿化できる凝集・固化剤の 開発とその適用技術について	第 63 凹新技術運加りと	江早浦1丁(MMのの消費 研)	
140	18	汚濁水を瞬時に浄化できる凝集・固化剤の	グレーターナゴヤ・ク	斯) 江草清行 (株)あの津技	
' -0	10	開発とその適用技術について	ラスターフォーラム	研)	
1			/ / / - / / - / Д	WI J	

141	18	英虞湾再生プロジェクトの狙い	第 16 回沿環連ジョイ	加藤忠哉 (三重県産業	
' - '	10	天俣汚行エクロクェクトの温い	ントシンポジウム	支援センター)	
142	18	 環境モニタリングシステムによる環境問題	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	千葉 賢 (四日市大学)	「雇」
142	10	解決への貢献	"	未 貞 (四口叩八子)	,,
143	18	真珠養殖が抱える英虞湾の環境インパクト	<i>II</i>	渥美貴史(三重県)	「若」
144	18	地域の小学校が展開する環境教育	<i>II</i>	奥村宏征 (三重県)	「若」
145	18	干潟造成技術	<i>II</i>	国分秀樹 (三重県)	「若」
146	18	アマモ場造成技術	<i>II</i>	前川行幸(三重大学)	「雇」
147	18	底泥処理技術	"	今井大蔵 (三重県産業 支援センター)	「雇」
148	18	海水導入による沿岸未利用域の再生技術	"	高山百合子(株)大成建 設)	「若」
149	18	英虞湾循環マップから判定した各技術の環 境再生効果	"	千葉賢 (四日市大学)	「雇」
150	18	英虞湾プロジェクトに対する国際・国内会	"	松田治(三重県産業支	
4.54	4.0	議の評価	*************************************	援センター)	
151	18	英虞湾の現状と環境改善に向けた取り組み	英虞湾の再生を考える	加藤忠哉(三重県産業	
450	4.0	の方向	シンポジウム 2007	ŕ	ГЁ
152	18	新しい里海の創生	"	前川行幸(三重大学)	「雇」
153	18	英虞湾の環境動態予測	"	千葉賢 (四日市大学)	「雇」
154	18	英虞湾再生プロジェクトの展開と将来展望	平成 19年度日本水産	松田治(三重県産業支	
		- 小規模半閉鎖性海域のモデルとして -	学会春季大会水産環境	援センター)	
			保全委員会シンポジウ		
			Д		
155	18	炭素・窒素安定同位体比による英虞湾の人	平成 19 年度日本水産		「若」
		口干潟造成前後の食物網比較	学会春季大会	産総合研究センター)	
156	18	英虞湾内人工および天然干潟における直上	第41回日本水環境学	国分秀樹 (三重県)	「若」
		水の水質変動の連続観測	会		
157	18	硝酸カルシウムによる底質改良効果と 現場試験	第 41 回日本水環境学 会	清水康弘 (三重県)	
158	18	干潟のはたらき	三重県野生生物研究会講演	国分秀樹 (三重県)	「若」
159	18	英虞湾における干潟再生	水産研究部研究成果報	国分秀樹 (三重県)	「若」
			告会		
160	18	漁場環境と干潟,藻場	三重県漁連女性部長会 議記念講演	国分秀樹 (三重県)	「若」
161	18	アマモ場の底泥における埋土種子の分布に	日本藻類学会第 31 回	森田晃央 (三重県産業	「雇」
		ついて	大会	支援センター)、奥村宏	「若」
				征(三重県)、阿部真比	
				古(中央水産研究所)	
				倉島彰・前川行幸(三	
				重大学)	
162	18	海洋からのAnammox細菌の集積培養と分	日本農芸化学会 2007		「雇」
		子生態学解析	年度大会	郎・木村哲哉・中嶋閏	
				(以上、三重大学)	

163	18	マイクロバブル噴流の流動とエアレーショ	日本機械学会東海支部		
		ン特性	第 62 期総会講演会	一・安藤俊剛(以上	
				三重大学) 他2名	
164	18	マイクロバブル、キャビテーション気泡噴	日本機械学会東海支部	社河内敏彦・辻本公	
		流に関する研究	第 62 期総会講演会	一・安藤俊剛(以上	
				三重大学) 他2名	
165	18	英虞湾由来の Anammox 細菌に関する研究	第148回日本農芸化学	粟冠真紀子・中島潤・	「雇」
			会中部支部会	木村哲哉·粟冠和郎(以	,
				上、三重大学)	
1.00	4.0	海皮汚泥を用いた田化物は休による場合	ロオルヴム笠の寿禾	•	
166	18	海底汚泥を用いた固化焼結体による環境争	日本化学会第87春季	中浜克幸・金子聡・勝	
		化	年会	又英之・鈴木透・太田	
			77 11 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (清久(以上、三重大学)	F
167	19	Development of treatment technology for	第 68 回分析化学討論		「雇」
		different industrial wastes Applications	会	・今井大蔵・加藤忠哉,	
		of Hi Biah System—	(日本分析化学会)	(以上、三重県産業支	
				援センター)金子聡	
				勝又英之・鈴木透・太	
				田清久(以上、三重大	
				学)	
168	19	Flow Analysis of Micro Bubble Jet Flow	The 6th Pacific Symp.	社河内敏彦・辻本公一、	
		by Flow Visualization	On Flow	安藤俊彦、他(以上、	
			Visualization and	三重大学)	
			Image Processing		
169	19	底生微細藻を用いた浅海域の底質改善効果	平成 19 年度日本水産	原口浩一(三重県産業	「顧」
		の評価	学会秋季大会	支援センター)山本民	
				次・笹田庄平(以上、	
				広島大学)石樋由香	
				(水産総合研究センタ	
				—)	
170	19	 底生微細藻を用いた浅海或の底質改善の試	平成 19 年度日本水産	原口浩一(三重県産業	「雇」
	. 0	み	学会秋季大会	支援センター)山本民	/
			JAMFAA	次・笹田庄平(以上	
				広島大学)・石樋由香	
				(水産総合研究センタ	
171	19	 藻場における魚類の食性研究への応用		石樋由香 (水産総合研	「若」
' '	13	未物にのける無規の良は町九、20元円	学会秋季大会	行機田首(小座総古城 究センター)	1 2.1
			▎╆┱Ҟ¥⋛⋏┱ ┃	元ピンター)	
172	19	セルフデザインによる人工干潟の地形形成	第 32 回海洋開発シン	湯浅城之 (三重県産業	「顧」
		_ 過程	ポジウム	支援センター)、片倉徳	
				男・高山百合子・上野	
				成三(以上、大成建设	
				(株))	
173	19	┣━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━	第 25 回植物細胞分子		
	. •		生物学会	(以上、三重県)	
174	19	全体報告	三重県地域結集型共同		
' '	13				
			研究事業・事業終了報	又版ヒノツー)	
			告会		

		T = 1			
175	19	研究リーダー報告「テーマ 新しい里海 の創生 」	II	前川行幸(三重大学)	「雇」
176	19	研究リーダー報告「テーマ 英虞湾の環	<i>II</i>	千葉賢 (四日市大学)	「雇」
		境動態予測 - 英虞湾の物質循環と環境動態 予測モデル - 」			
177	19	干潟・アマモ場による英虞湾の環境再生	<i>II</i>	国分秀樹 (三重県)	「若」
178	19	底泥処理技術とその応用展開	<i>II</i>	今井大蔵 (三重県産業	「雇」
				支援センター)	
179	19	新技術エージェント報告	<i>II</i>	松田治(三重県産業支	
				援センター)	
180	19	研究成果の活用と今後の展開	11	大熊和行 (三重県)	
181	19	閉鎖性海域の環境保全と再生	第 10 回水環境学会シ	山本民次(広島大学)	
			ンポジウム , 健全な水		
			環境の再生・創造、熊		
			本		
182	19	ー 底生微細藻類の増殖に及ぼす光鎖度の影響	日本プランクトン・ベ	山本民次 (広島大学)	
			ントス合同大会	他1名	
183	19	海洋性フミン物質による室内ダニアレルゲ	東海5大学新技術説明		
		ンの低減化	会	木透・太田清久(以上、	
		32 160 11 10 11 11	_	三重大学)	
184	19	Benthic ecosystem developed in artificial tidal	The Third International		「雇」
	. 0	flat constructed with dredged soil	Conference on	151	「若」
		That constructed with dreaged son	Environmental Science	司、西嶋渉、岡田光正	נוד
			and Technology	(以上、広島大学)	
185	19	 浚渫土を用いて造成した干潟上のベント	第 10 回日本水環境学		
	. •	ス生態系の評価	会シンポジウム	石井亮(三重県産業支	
				援センター)、中井智	
				司・西嶋渉・岡田光正	
				(以上、広島大学)	
186	19	 浚渫土を活用した海洋ブロックの開発研究	第 56 回日本分析化学		「雇」
100	13		会	Ahmed H. A. Dabwan	/E J
			4	(以上、三重県産業支	
				援センター)、金子聡・	
				勝又英之・鈴木透・太	
				田清久(以上、三重大	
				学)	
187	19	アコヤガイの閉核力と体成分、およびへい	平成 19 年度日本水産	- /	「雇」
	. •	死率との相関	学会秋季大会	重県産業支援センタ	「若」
		, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		一)、林政博・青木秀	
				夫(以上、三重県)、	
				古丸明(三重大学)、	
				他 1 名	
188	19	Development of the high concentration	Asian and Pacific		
		dissolved oxygen discharge system with	Coasts 2007	高山百合子(以上、大	
		more than 200% of oxygen saturation		成建設㈱)、村上和男	
		water.		(武蔵工業大学)	
189	19	英虞湾の環境の現状と課題	賢島大学講演	国分秀樹 (三重県)	「若」
				<u> </u>	

190	19	英虞湾の今とこれからを考える	三重県地薬詰集型共同	国分秀樹、渥美貴史(三	「若」
			研究事業・成果報告会	重県)	
			(志摩市)		
191	19	新規固化剤の開発とその応用展開	びわ湖環境ビジネスメ	江草清行 (㈱あの津技	
			ッセ(長浜市)	研)	
192	19	Monitoring of Biologically Productive	3大学国際ジョイント	·	「雇」
		Artificial Tidal Flat created using Muddy	セミナー&シンポジウ		
		Dredged Sediments, in Ago Bay, Japan	ム 2007(タイ、チェン	上、三重県産業支援セ	
			マイ)	ンター)、金子聡・勝	
				又英之・鈴木透・太田 清久(以上、三重大学)	
193	19	 オゾン酸化による海洋性フミン物質の分解	第 38 回中部化学関係		「雇」
133	13	カンク酸 口による/単十円ノーン 勿員00万円	学協会支部連合秋季大		/E J
			会	上、三重県産業支援セ	
				ンター)、金子聡・勝	
				又英之・鈴木 透・太田	
				清久(以上、三重大学)	
194	19	海底汚泥を利用した微生物担持焼結体によ	第 38 回中部化学関係	中浜克幸・金子聡・勝	
		る水質浄化	学協会支部連合秋季大	又英之・鈴木透・太田	
			会	清久(以上、三重大学)	
				Ahmed H. A. Dabwan •	
				中野みよ(以上、三重	
4.05	40	サボッツ州・ルロナロ・ナーエアロレフ	※ 5. 日本出土光井 市	県産業支援センター)	Г-1.1-
195	19	英虞湾の浚渫へドロを用いた人工干潟とア マモ場における底質と底生生物の変遷	第 54 回海岸工学講演会	国分秀樹(三重県)	「若」
196	19	干潟の地形・底質粒度の安定化工法に関す	第 54 回海岸工学講演	湯浅城之 (三重県産業	「雇」
100	10	る平面水理実験	会 会	支援センター)片倉徳	/庄」
			2	男・高山百合子・上野	
				成三(以上、大成建设	
				(株))	
197	19	英虞湾の干潟・アマモ場再生実験データに	第 54 回海岸工学講演	高山百合子(大成建设	「若」
		基づいたHISモデルに夜干潟生物環境評価	会	㈱)、国分秀樹(三重県)	
198	19	The Functio of material circulation in	河口沿岸域の機能修復	国分秀樹 (三重県)	「若」
		Tidal flat.	と監理に関する第2回		
			国際ワークショップ		
400	4.0		(韓国安山市)		
199	19	Utilization and Future Perspective of		松田治(三重県産業支	
		Automatic Environmental Monitoring	と監理に関する第 2回 国際ワークショップ	援センター)	
		System in Ago Bay Restoration Project	(韓国安山市)		
200	19	A sensitivity study on impact of	日本水産学会中部支部	G.A.Anggara Kasih	「雇」
	. 5	deposition organic matter flux to the	大会	原口浩一(三重県産業	د خدر،
		sediments quality		支援センター)、千葉賢	
		,		(四日市大学)清水康	
				弘・山形陽―(以上	
				三重県)	

201	19	真珠漁場における海底への有機負荷と溶出	日本水産学会中部支部	清水康弘・山邢陽一(三	
		特性	大会	重県)原口浩一·G.A.	
				Anggara Kasih (三重	
				県産業支援センター)	
				千葉賢 (四日市大学)	
202	19	貧酸素水塊形成時の英虞弯奥部海底近傍に	日本水産学会中部支部	原口浩一・G.A.	「雇」
		おける酸素動態	大会	Anggara Kasih(以上、	
				三重県産業支援センタ	
				一)山本民次(広島大	
				学)清水康仏・山邢陽	
				一(以上、三重県)千	
				葉賢 (四日市大学)	
203	19	高生残系統アコヤガイ作出	平成 19 年度水産増養	石川卓・富永ちひろ(三	「雇」
			殖関係研究開発推進特	重県産業支援センタ	「若」
			別部会「魚病部会」	一)、林政博・青木秀	
				夫(以上、三重県)、	
				古丸明(三重大学)、	
				他 1 名	
204	19	英虞湾の潮止め池における海水の挙動	SAS,07 (Society of	高橋正昭、井岡幹博	「雇」
			Advanced Science)	千葉賢(以上、四日市	
			Intelligent	大学)国分秀樹(三重	
			Symposium	県)	
205	19	Assessment of Microbial Adherent	Seminar on the	中野みよ(三重県産業	「雇」
		Carriers for Possible Application in	management of	支援センター)、菅原庸	
		Nitrogen Removal	in shore environment	(前 三重大学) 奥村	
			and utilization of	宏征、清水康仏(以上、	
			fisheries resources		
			November 16-18,	重大学)、他1名	
			2007, in Kagoshima		
			University		

^() 備考欄の「顧」は、筆頭著者が雇用研究員の場合、「若」は、筆頭著者が35歳以下の場合を示す。

(書籍発表)

No	年度	著作名	掲載誌名(巻 号 頁)	著者名	備考
1	15	浚渫ヘドロを用いた干潟再生工法	海洋技術の最新情報 集(海洋開発協会)	上野成三(大成建设株)	
2	16	浚渫へドロを活用した干潟造成	大成建设環境·社会報告書2004	(, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
3	16	新方式センサによる、ワイパー式水温・塩分計 デビュー	ALEC TECHNICAL EXPRESS 2004年9月号	小梨昭一郎(アレック電子(株))	
4	16	内湾性・外洋性藻場造成技術	あたらしい 水質・底質 の浄化技術(社団法人 底質浄化協会)	上野成三(大成建设株)	
5	16	浚渫汚泥を用いた干潟再生技術	あたらし、水質・底質 の浄化技術(社団法人 底質浄化協会)	上野成三(大成建设株)	
6	16	浚渫へドロを用いた人工干潟再生工法	環境保全の技術・手法 に関する事例集 2004 年度版(日本土木工業 協会)	上野成三(大成建毀株)	
7	17	浚渫へドロを用いた人工干潟再生工法	環境保全の技術・手法 に関する事例集 2004 年度版(日本土木工業 協会)	上野成三(大成建筑株)	
8	17	英虞湾における浚渫へドロを用いた干潟再 生工法について	ヘドロ ((社) 底質浄 化協会)	上野成三(大成建设株)	
9	17	隔月連載 沿岸環境の再生と機能回復 第 8回 英虞湾の再生 (以降連載)	アクアネット 1月号 (有限会社 湊文社)	•	
10	17	「干潟の造成」, 3.1 英虞湾 : 浚渫へドロを 用いた干潟再生実験	書籍「干潟の造成」(国際海洋科学技術協会)	上野成三(大成建设株)	
11	17	系と底生生態系の相互作用	水産学会誌, Vol.71, 222-225 (2005)	山本民次(広島大学)	
12	17	隔月連載 沿岸環境の再生と機能回復 第 9回 英虞湾の再生	アクアネット 3月号	松田治 (三重県産業支援センター)	
13	18	内湾浅海域浮泥の水産環境保全における重 要性	水産学会誌, Vol.72, No.2,281-284(2006)	山本民次(広島大学)	
14	18	隔月連載 沿岸環境の再生と機能回復 第 10回 英虞湾の自然再生 - 浚渫泥を再 資源化して利用する技術 -		援センター)	
15	18	隔月連載 沿岸環境の再生と機能回復 第 11 回 閉鎖性海域の環境保全をめぐる国際 的な動き - フランスで開かれた国際会議 EMECS7/ECSA40 に参加して -		援センター)	
16	18	隔月連載 沿岸環境の再生と機能回復 第 12回 英虞湾の自然再生 - 環境モニタ リングから環境動態予測へ -		松田治 (三重県産業支援センター)	
17	18	隔月連載 沿岸環境の再生と機能回復 第 13回英虞湾の自然再生 - 多用なグルー プの連携 -	アクアネット 3月号	松田治 (三重県産業支援 センター)	

18	18	「英虞湾再生プロジェクト」をご存知です	みえネット 10 月号	森田晃央、他 (三重県	「雇」
	10	か?	(三重県産業支援セ	産業支援センター)	「若」
			ンター機関誌)		н,
19	18	 英虞湾再生プロジェクトの研究紹介「環境と	みえネット 1月号 三	石川卓(三重県産業支	「雇」
	. •	調和した真珠養殖方法の確立」	重県産業支援センタ	援センター)	「若」
			一機関誌)	,	
20	18	英虞湾再生プロジェクトの研究紹介「人工中	みえネット 4月号(三	原口浩一(三重県産業	「雇」
		層海底による沈降有機物の分解促進」	重県産業支援センタ	支援センター)	
			-機関誌)		
21	18	環境配慮・地域特性を活かした干潟造成法	恒星社厚生閣	中村充•石川公敏偏(上	
				野成三,勝井秀博,鈴	
				木輝明,武内智行,中	
				村義治,日野明徳,古	
				川恵太,松原雄平共著)	
22	18	Fundamental Studies on Salt Water Current	15th Congress of		
		Advancing into a Brackish Lake by		-	
		Laboratory Tests and 3D Computations	Symp. on Maritime	,	
			Hydraulics, Chennai,	学)	
			INDIA, Vol.III,		
			pp.1475-1482		
23	19	隔月連載 沿岸環境の再生と機能回復 第	アクアネット 5月号		
		14回 韓国の沿岸環境と環境修復事情		援センター)	
24	19	隔月連載 沿岸環境の再生と機能回復 第	アクアネット 7月号	松田治(三重県産業支	
		15回 沿岸環境と「里海」をめぐる最近の		援センター)	
		大きな動き			
25	19	第 16 回沿岸環境関連学会連絡協議会(沿環			
		連)ジョイントシンポジウム「英虞湾再生プ		援センター)	
		ロジェクト」	(2007)		
26	19	環境再生に対する考え方と取り組み		山本民次 (広島大学)	
			生、水産学シリーズ、		
			日本水産学会(監修)		
			山本民次、古谷研		
			(編):恒星社厚生閣		
27	19	英虞湾再生プロジェクトの展開と将来展望	閉鎖性海域の環境再		
			生,水産学シリーズ,	援センター)	
			日本水産学会(監修)		
			山本民次、古谷研		
			(編):恒星社厚生閣	E-W	F +
28	19	微小プランクトン生態系における物質循環:	海洋プランクトン生	原口浩一、山本民次	「顧」
		底生微細藻のバイオマスと一次生産	態学、谷口旭(監)		
			佐々木洋、他(編)		
	4.5	しな理時の人にし マネマロテリュウサ	成山堂		
29	19	水産環境保全にとっての干潟再生の意義 	懇話会ニュース、日本	山本民次 (広島大学)	
			水産学会誌, Vol.73,		
			No.2,5月号、339·342		
			(2007)		

30	19	英虞湾における干潟再生事例:底質栄養レベ	月刊海洋	国分秀樹(三重県)	「若」
		ルの制御による生物生産機能と物質循環機	2007.vol39.No9		
		能の改善			
31	19	英虞湾再生プロジェクトから生まれた固化	みえネット 9月号(三	今井大蔵、小野真範	
		剤「アゴクリーン」と固液分離装置「ハイビ	重県産業支援センタ	(以上、三重県産業支	
		アシステム」による事業展開、他	一機関誌)	援センター)	
32	19	英虞湾再生プロジェクトの研究成果紹介、他	みえネット 1月号(三	黒川芳樹(三重県産業	
			重県産業支援センタ	支援センター)川本英	
			-機関誌)	司(三重県)	

⁽⁾ 備考欄の「顧」は、筆頭著者が雇用研究員の場合、「若」は、筆頭著者が35歳以下の場合を示す。

技術的実績 [様式9]

(国内特許)

N0	年度	発明の名称	取得(出願等)年月日	特許番号	発明者名	備考
1	15	散気装置、泡沫分離装置及	平成 15年 10月 22日	特願 2003-362282		「単」
		び排水浄化システム	平成 17年 5月 19日	特開 2005-125205	1	, -
2	15	アマモ類の無菌培養法及び	平成16年 3月30日	特願 2004-097414	橋爪不二夫 山本有子	「単」
_ ~	10	該方法により作出されるア	平成 17年 10月 13日	特開 2005-278496	11-9/17 1> 7 12-17-133	7-3
		マモ類	17.70 = 1 1 2 7 1 2	1300		
3	15	パガスを主原料とした土壌	平成 15年 8月 11日	特願 2003-291878	水田登太郎、浜義明	「単」
		安定固化剤	平成17年 3月10日	特開 2005-60508		
4	15	 無機高分子凝集剤と有機高	平成 15年 10月 8日	特願 2003-349513	水田登太郎 高野譲	「単」
1	10	分子凝集剤を含有する土壌	平成 17年 4月 28日	特開 2005-113025	要田真宏	4-3
		安定用団粒状固化剤	13% 17 + 17 1 20 H	13 775 2000 110020	女田共仏	
5	15	汚泥固化用組成物および汚	平成 15年 10月 31日	特願 2003-372824	加藤忠哉、水田登太	
	10	泥の固化方法	平成 17年 10月 13日	特開 2005-131595	郎、浜義明、	
				, 5,0,0	松岡敏文、江草清行、	
					佐伯恭	
6	16	電気伝導度センサー	平成 16年 7月 23日	特願 2004-215415	上野成三、	
			平成 18年 2月 9日	特開 2006-038507	小梨昭一郎	
			平成 19年 1月 5日	特許 3899352		
7	16	マイクロバブル発生ノズル	平成 17年 2月 4日	特願 2005-028780	社河内敏彦	「単」
8	16	水質浄化用焼結体及びその	平成 17年 3月 3日	特願 2005-059268	太田清久、金子聡、	「単」
		製造方法			原田拓也	
9	17	アマモ移植用基盤シート及	平成 17年 4月 5日	特願 2005-109001	湯浅城之、	۲J٦
		びアマモ場の造成方法			高山百合子上野成三	
10	17	泥中フミン物質の分解回収	平成 17年4月26日	特願 2005-127692	·	「単」
		方法			原田拓也	_
11	17	アマモの育成方法	平成 17年 5月 27日	特願 2005-155573	今井大蔵、アハメド	۱٦٦
					ハムウッド アハメド	
					ダブワン、森田晃央	
10		________\\\\\\\\\\\\	T + 1 = F = 0 = 0	##### 000F 1 FFFF	加藤忠哉	F .
12	17	海洋ブロックの製造方法	平成 17年 5月 27日	特願 2005-155574		ر ۲ ا
					ハムウッドアハメド	
10	17	お 選 上 の 切 理 柱 署	亚世 17年 0日 0日	# 土 (五,000,000,000,000,000,000,000,000,000,0	ダブワン、加藤忠哉	ر ۲
13	17	浚渫土の処理装置	平成 17年 6月 2日	特願 2005-162865	今井大蔵、アハメド	. 7 1
					ハムウッド アハメド ダブワン、加藤忠哉	
14	17	 濁水の固液分離装置	平成 17年 6月 2日		石飛稔、江草清行 今井大蔵、片倉徳男	ر ۲
1.4	11	/3/ハツ凹/以り剛衣直		1小学 2000-100000	上野成三、中条基、	اردا
					石飛稔、前川健治	
15	17	ベルト式脱液装置	平成 17年 6月 2日	特願 2005-163334	今井大蔵 片倉徳男	ر ل ۲
		77 1 2V13/0/1AW E	1 100 1 1 073 2 H	1.3000 2000 100001	上野成三、小林峰男	
					井上政明、前川健治	
]

16	17	浚渫土を用いた多孔質ペレ	平成 17年 7月 1日	特願 2005-193233	今井大蔵、アハメド	ر ر ۲
10	17	ットの製造方法	十八八十八八八八	1寸/6只 2000-130250	ファス	2 1
		グトの表起力は			ダブワン、加藤忠哉	
					ブラブラ、加藤心哉 江草清行、松岡俊文	
					江早消仃、松间俊义	
17	17	海藻養殖識別方法装置およ	平成 17年 8月 18日	特願 2005-238041	杰田見山	ر ر ۲
17	17	びそれを用いた海藻養殖方	十八八十〇月10日	1寸原点 2000-230041	林山光大	2.1
		法の識別方法				
18	17	有害赤潮原因藻類の増殖印	平成 17年 9月 5日	特願 2005-256175		۲٦٦
18	17	制方法	十成17年9月3日	付限 2003-230173	本城凡夫、佐島隆生	. 7]
10	17	海底酸素消費量測定装置	平成 17年 10月 25日	特願 2005-310337	原口浩一	٦٦٦
19			平成 17年 10月 23日			ر ۱
20	17	アコヤガイ閉殻力の測定方	平成17年11月22日	特願 2005-337179	古丸明富永ちひろ	٦٦.
		法およびそれを用いたアコ			林政博	
01	17	ヤガイの養殖管理方法	平成 17年 11月 29日	特願 2005-343676	原口浩一、田原実、片	ر ۲ ۲
21	17	有機物の分解装置およびそ	平成17年11月29日	行限 2003-343070		٦٦.
		れを用いた貝の養殖方法			山貴之	
22	17	底質固化物の製造方法	平成 17年 12月 22日	特願 2005-370477	アハメド ハムウッド	٦٦٦
					アハメド ダブワン、	
					今井大蔵、加藤忠哉	
23	18	ガスクロマトグラフ分析方	平成 18年 6月 21日	特願 2006-171480	アルン・バイ・パテル	٦٦٦
		法				
24	18	アンモニア酸化・脱窒細菌	平成 18年 7月 10日	特願 2006-189611	中野みよ	ιl
		群集の集積培養方法				
25	18	微生物担持水質浄化用焼結	平成 18年 8月 24日	特願 2006-227904	太田清久、金子聡、	٦٦٦
		体及びその製造方法並びに			原田拓也、	
		それを用いた水域の水質浄			木村俊夫、中野みよ	
		化方法				
26	18	水質浄化剤及びその製造方	平成18年9月1日	特願 2006-237777	太田清久、金子聡、	٦٦٦
		法			勝又英之、鈴木透	
27	18	軟泥土壌用粉末固化材及び	平成 18年 10月 23日	特願 2006-287581	高野穣、江草清行	
		その製造方法				
28	18	貝肉含有廃水の処理方法	平成 18年 11月 17日	特願 2006-307773	今井大蔵、アハメド	ر ل ٦
	-				ハムウッド アハメド	_
					ダブワン、加藤忠哉	
29	18	アレルゲンの除去方法	平成 19年2月19日		金子聡勝又英之原	
۵۵	10	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	1 10 TO TO TO TO TO	13 Now 2001 01002	田拓也太田清久、鈴	
					木透、増山和晃	
30	18	 アサリ育成土	平成 19年 3月 16日		石井亮、西嶋渉、	ر ل ٦
30	10		1 12 10 十 0 万 10 日	17000 AOO / TOOU TI	中井智、岡田光正	7 1
31	19	アマモの造成方法	平成 19年 4月 2日	特願 2007-96636	今井大蔵、アハメドハ	ر ر ۲
31	19	, 、 C 57 足137 77 74	1 7% 10 千 4 77 6 17	79 0分 たしひ 7-30030	ムウッドアハメドダ	ا د د
					ブワン、加藤忠哉	
<u> </u>					ノフノ、川豚心叺	

	32	19	磯根設置用浚渫土ブロック	平成 19年4月25日	特願 2007-115080	今井大蔵、アハメドハ	ړ ۲ ا
						ムウッドアハメドダ	
						ブワン、加藤忠哉	
	33	19	環境浄化剤及びその製造方	平成 19年 7月 2日	特願 2007-174298	金子聡、勝又英之、	۲J٦
			法、並びに六価クロムの除			鈴木透、太田清久、	
			去方法			今井大蔵、アハメド	
						ハムウッド アハメド	
						ダブワン、加藤忠哉	
Ī	34	19	浚渫底泥の処理方法	平成 19年7月10日	特願 2007-180695	今井大蔵、アハメド	ړ ۲ ا
						ハムウッド アハメド	
						ダブワン、金子聡、	
						勝又英之、鈴木透、	
						太田清久、加藤忠哉	
				Ĭ			

(外国出願)

Ī	1	18	アコヤガイ閉殻力の測定方	平成 18年 11月 20日	PCT/JP2006/	古丸明 副かちひろ	۱٦٦
			法およびそれを用いたアコ	(国際特許出願)	323127	林政博	
			ヤガイの養殖管理方法				

^() 備考欄の「J」は、JSTが出願人に含まれるもの、「単」は企業・大学等の単独出願のもの。

(展示会出展等)

No	年度	出展内容	展示会名	説明者	備考
1	15	底質の固化造粒法、英虞湾の 環境モニタリング技術のパ ネル展示	三重の21世紀リーディング産業展	加藤研究統括、他	
2	15	底質の固化造粒法、英虞湾の 環境モニタリング技術のパ ネル展示		加藤研究統括、他	
3	15	底質の固化造粒法、英虞湾の 環境モニタリング技術のパ ネル展示	東海地域クラスターフォーラム	加藤研究統括、他	
4	16	プロジェクターによる人工 干潟造成技術等の上映、パネ ルの展示、他	三重の21世紀リーディング産業展	加藤研究統括、他	
5	16	プロジェクターによる浚渫 土処理技術等の上映、パネル の展示、他	地域発先端テクノフェア	加藤研究統括、他	
6	16	人工干潟造成法、底質の固化 造粒法等の研究成果のパネ ル展示、浚渫土を利用した海 洋ブロックの展示、他		加藤研究統括、他	
7	16	プロジェクターによる人工 干潟造成技術等の上映、パネ ルの展示、他		加藤研究統括、他	
8	17	プロジェクターによる浚渫 土処理技術等の上映、パネル の展示、他	三重の21世紀リーディング産業展	加藤研究統括、他	
9	17	プロジェクターによる人工 干潟造成技術等の上映、パネ ルの展示、他		加藤研究統括、他	
10	17	プロジェクターによる人工 干潟造成技術等の上映、パネ ルの展示、他	地域発先端テクノフェア	加藤研究統括、他	
11	17	プロジェクターによる人工 干潟造成技術等の上映、パネ ルの展示、他	東海地域クラスターフォーラム	加藤研究統括、他	
12	18	HI-BIAH-SYSTEM 展示、 新規固化剤による固化技術 実演、他	2006 豊かな海づくり大会	今井雇用研究員、他	
13	18	HI-BIAH-SYSTEM 人工干 潟造成技術のパネルの展示	第 48 回自然公園大会	加藤研究統括、他	
14	18	浚渫土を利用した海洋ブロックの展示、他	地域結集型発研究成果移転フェア	加藤研究統括、他	

15	18	HI-BIAH-SYSTEM 展示、 新規固化剤による固化技術	リーディング産業展みえ 2006	加藤研究統括、他
		実演、他		
16	18	プロジェクターによる人工	地域発先端テクノフェア	加藤研究統括、他
		干潟造成技術等の上映、パネ		
		ルの展示、他		
17	18	プロジェクターによる人工	東海地域クラスターフォーラム	加藤研究統括、他
		干潟造成技術等の上映、パネ		
		ルの展示、他		
18	19	プロジェクトの紹介、	中経連テクノフェア 2007	加藤研究統括、他
		新規固化剤による固化技術		
		のパネルの展示、他		
19	19	プロジェクトの紹介、	全日本科学技術機器展 in 大阪	加藤研究統括、他
		新規固化剤による固化技術	2007	
		のパネルの展示	-01 \17 TEL 12 \ \ - 1 \ 1 \ 000 \	
20	19	プロジェクターによる人工	びわ湖環境ビジネスメッセ2007	加藤研究統括、他
		干潟造成技術等の上映、		
		HI-BIAH-SYSTE、パネルの 展示、他		
0.1	10	展小、他 プロジェクターによる人工	リーディング産業展みえ 2007	加藤研究統括、他
21	19	フロジェクターによる人工 干潟造成技術等の上映、	ソーティフソ 性未成のん 2007 	加吸水丸机竹、他
		十海追成技術等の工機、 HI-BIAH-SYSTE、パネルの		
		展示、他		
22	19	後渫土を利用した海洋ブロ	クラスタージャパン 2007	加藤研究統括、他
22	19	ックの展示、他	/ / / / / / / / 2007	
<u></u>		2.7.0.成小、IE		

地域への波及効果 [様式9]

(マスコミ)

			ı		
No	年 度	新聞社(報道番組)名	報道年月日	内容	備考
1	15	読売新聞	平成15年5月21日	「コア研究室開所式」開催	
2	15	中日新聞	平成15年5月21日	「コア研究室開所式」開催	
3	15	伊勢新聞	平成15年5月21日	「コア研究室開所式」開催	
4	15	NHK総合テレビ (中部7県)	平成15年7月11日	三重県地域結集型共同研究事業の概要に	
		「ナビゲーション」		つき研究統括へのインタビュー	
5	15	伊勢新聞	平成16年1月31日	「産学官研究交流フォーラム・オン・キ ヤンパス2004」での紹介の概要	
6	15		平成 16年 2月 3日	「環境モニタリングシステム」公開の概	
	,	1 H = 27137712	7 770 20 7 1173 2 74	要	
7	15	中部経済新聞	平成16年2月12日	2月14日に「英虞湾の再生を考えるシンポ	
				ジウム2004」の開催	
8	15	中日新聞	平成16年2月15日	「英虞湾の再生を考えるシンポジウム	
	4.5	/工 表 文广 88	亚产10年0日17日	2004」の開催	
9	15	伊勢新聞	平成16年2月15日	「英虞湾の再生を考えるシンポジウム 2004」の開催	
10	15		平成16年2月20日	「環境モニタリングシステム」公開の概	
10	15	伊努利国	十	要	
11	15	中日新聞	平成16年2月28日	地元住民を対象に「環境モニタリングシ	
				ステム」の利用方法研修会を開催	
12	16	日刊工業新聞	平成16年10月28日	ヘドロで干潟再生	
13	16	伊勢新聞	平成16年11月2日	アマモ場造成、実証試験	
14	16	読売新聞	平成16年11月2日	アマモ場造成、実証試験	
15	16	中日新聞	平成16年11月4日	アマモ場造成、実証試験	
16	16	伊勢新聞	平成16年11月17日	研究成果発表会	
17	16	読売新聞	平成17年2月20日	英虞湾の再生を考えるシンポジウム	
18	17	朝日新聞	平成 17年 5月 28日	「海のゆりかご」英虞弯に広がれ・・・	
				漁民の協力でアマモ場造成用の種子採取	
19	17	山陰経済ウイークリー	平成 17年 6月 14日 	英虞湾のヘドロを固化する「ハイビアシステム」を開発・全国展開目指す	
20	17		平成 17年 7月 31日	環境次世代へ 三重県「英虞湾"自浄能	
				力"再生プロジェクト」	
				アマモの " 森 " 青々と茂る海	
21	17	NHKTVニュース(名古	平成 17年 10月 5日	「ヘドロ固化脱水装置のデモンストテイ	
		屋)		ション・英虞湾再生プロジェクト」	
22	17	三重テレビニュース			
23	17	読売新聞	平成 17年 10月 6日	ヘドロ固化脱水装置の公開実験・ヘドロ	
0.1	1~	中口	亚式 17年 10日 0日	を干潟造成材に	
24	17	中日新聞	平成 1/ 年 10月 6日 	ヘドロ固化脱水装置の公開実験・ヘドロ を干潟造成材に	
				で1/河足以竹に	

17 日本経済新聞 平成17年10月7日 へ下口で干潟舎政・奴隷装置を開発・古 紙面化剤で高速処理 27 17 中日新聞 平成17年10月7日 へ下口で干潟舎政・奴隷装置を開発・古 紙面化剤で高速処理 27 17 中日新聞 平成17年11月18日 研究成果発表会・研究成果事業化へ総合 28 17 中部経済新聞 平成17年11月18日 研究成果発表会・研究成果事業化へ総合 29 17 日本経済新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 30 17 日経産業新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 31 17 建设通信新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 32 17 化学工業日報 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 33 17 電気新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 34 17 日刊建設工業新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 35 17 日刊建設産業新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 36 17 朝日新聞 平成18年2月1日 英處湾門生考えよう 11日志摩でシンポジウム 37 17 伊勢新聞 平成18年2月1日 英處湾門生考えよう 11日志摩でシンポジウム 38 17 電気新聞 平成18年2月1日 英處湾門生考えよう 11日志摩でシンポジウム 39 17 電気新聞 平成18年2月1日 英慮湾再生シンが開催 地元児童ば環境 製で訴え 東成18年2月1日 東度消耗シンが開催 地元児童ば環境 製で訴え 東成18年2月1日 東倉湾社シンが開催 地元児童ば環境 東の18年2月1日 東倉湾社シンが開催 地元児童ば環境 東の18年2月1日 東倉湾社・シンが開催 地元児童ば環境 東の18年2月1日 東倉湾市生シンが開催 地元児童ば環境 東京湾					,
日刊建設工業新聞 平成17年10月7日 へ下口で干減6銭・処理装置を開発・古 紙固化剤で高速処理 平成17年11月18日 研究成果事業への高級 平成17年11月18日 研究成果事業への高級 平成17年11月18日 研究成果事業への高級 平成17年11月18日 研究成果事業人の高級 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 30 17 日経産業新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 31 17 建設通信新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 32 17 化学工業日報 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 33 17 電気新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 34 17 日刊建設工業新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 35 17 日刊建設産業新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 36 17 朝日新聞 平成18年2月2日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 37 17 伊勢新聞 平成18年2月2日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 元素変調性考えよう 11日志摩でシン 元変変調性考えよう 11日志摩でシン 元変変調性考えよう 11日志摩でシン 元変変調性考えよう 11日志摩でシン 元・デン・ 17 東京・新聞 平成18年2月1日 英度適再生考えよう 11日志摩でシン 元・デン・ 17 東京・新聞 平成18年2月1日 英度適再生ランが開催 地元児童は環境 劇で訴え 東京・新聞 平成18年2月1日 英度適再生シンが開催 地元児童は環境 製で訴え 東京・新聞 平成18年3月26日 東境ルネサンス 英度適の再生 教え真 珠の月 42 18 日経産業新聞 平成18年4月26日 東境ルネサンス 英原適の再生 教え真 東京・新島・ 18 中部の土木(Mugen): 平成18年4月28日 本原市・近年・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・	25	17	日本経済新聞	平成 17年 10月 7日	
17 中日新聞 平成17年11月18日 研究成果寒素会・研究成果事業化/総数 17 中部経済新聞 平成17年11月18日 研究成果発表会・研究成果事業化/総数 17 日本経済新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 30 17 日経産業新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 31 17 建設通信新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 32 17 化学工業日報 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 33 17 電気新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 34 17 日刊建設工業新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 35 17 日刊建設産業新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 36 17 朝日新聞 平成18年2月2日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 36 17 朝日新聞 平成18年2月2日 白然繁殖工法によるアマモ場の再生 37 27 伊勢新聞 平成18年2月2日 白然繁殖工法によるアマモ場の再生 37 27 27 37 37 47 伊勢新聞 平成18年2月2日 英慶湾程生考えよう 11日志摩でシンポジウム 7 27 37 37 37 47 79 38 38 39 39 39 39 39 39 39 39 39 39 39 39 39	26	17	日刊建設工業新聞	平成 17年 10月 7日	
28 17 中部経済新聞 平成 17年 11月 18日 研究成果発表会・研究成果事業化へ総数					紙固化剤で高速処理
17 日本経済新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 17 接設通信新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 17 建設通信新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 17 使要 17 年 12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 18 明日新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 17 明日新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 18 明日新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 17 朝日新聞 平成18年2月2日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 17 朝日新聞 平成18年2月2日 英慶湾再生考えよう 11日志摩でシンポジウム ボッウム ボックド	27	17	中日新聞	平成 17年 11月 18日	研究成果発表会・研究成果事業化へ意欲
17 日経産業新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 17 建設通信新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 32 17 化学工業日報 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 33 17 電気新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 34 17 日刊建設工業新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 35 17 日刊建設産業新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 36 17 朝日新聞 平成18年2月2日 京藤高町生考えよう 11日志摩でシン ボジウム 京藤高町世考えよう 11日志摩でシン ボジウム 京藤高町 平成18年2月9日 東庭高甲生考えよう 11日志摩でシン ボジウム 京藤高町里・フボ開催 地元児童は環境 劇で訴え 東庭高甲生シスボ開催 地元児童は環境 劇で訴え 東成18年2月12日 東庭高甲生シンボ開催 地元児童は環境 劇で訴え 東成18年2月12日 東庭高甲生シンボ開催 地元児童は環境 劇で訴え 東成18年3月26日 東庭高甲生 対入真 東庭高中生シストー 東京 18年4月28日 東京 19年2月12日 東京 19年2月11日 東京 19年2月12日 東京	28	17	中部経済新聞	平成 17年 11月 18日	研究成果発表会・研究成果事業化へ意欲
31 17 建設通信新聞 平成17年12月21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生	29	17	日本経済新聞	平成 17年 12月 21日	自然繁殖工法によるアマモ場の再生
32 17 化学工業日報	30	17	日経産業新聞	平成 17年 12月 21日	自然繁殖工法によるアマモ場の再生
33 17 電気新聞 平成 17年 12月 21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 17 日刊建設工業新聞 平成 17年 12月 21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 17 日刊建設産業新聞 平成 17年 12月 21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 17 朝日新聞 平成 18年 2月 2日 英虞海再生考えよう 1 1日志摩でシン ボジウム 37 17 伊勢新聞 平成 18年 2月 9日 万丈 万丈 万丈 万立 万寸 万寸 万寸 万寸 万寸 万寸 万寸	31	17	建設通信新聞	平成 17年 12月 21日	自然繁殖工法によるアマモ場の再生
34 17 日刊建設工業新聞 平成 17年 12月 21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 17 日刊建設産業新聞 平成 18年 2月 2日 白然繁殖工法によるアマモ場の再生 英處湾再生考えよう 1 1日志摩でシン ボジウム 7 7 7 7 7 7 7 7 7	32	17	化学工業日報	平成 17年 12月 21日	自然繁殖工法によるアマモ場の再生
35 17 日刊建設産業新聞 平成 17年 12月 21日 自然繁殖工法によるアマモ場の再生 7成 18年 2月 2日 英虞湾再生考えよう 11日志摩でシンポジウム 37 17 伊勢新聞 平成 18年 2月 2日 英虞湾再生考えよう 11日志摩でシンポジウム 38 17 電気新聞 平成 18年 2月 9日 アマモ養殖に取り組む 9 17 読売新聞 平成 18年 2月 12日 英虞湾再生シンボ開催 地元児童は環境劇で訴え 40 17 伊勢新聞 平成 18年 2月 12日 英虞湾再生シンボ開催 地元児童は環境劇で訴え 41 17 朝日新聞 平成 18年 3月 26日 環境ルネサンス 英慶湾の再生 救入真珠の海 42 18 日経産業新聞 平成 18年 4月 20日 志の津技研がペーパースラッジ焼起灰を使う干湯再生技術を開発 43 18 中部の土木(Mugen): 平成 18年 4月 25日 大われた干潟の力で自然の力で蘇らせる「英虞湾再生ブロジェクト」 18 朝日新聞 平成 18年 4月 28日 志摩市立神小学校に自然環境が労者大臣表彰「自然ふれあい 18門」に選却る 18 読売新聞 平成 18年 4月 29日 志摩市立神小学校に自然環境が労者大臣表彰「自然ふれあい 18門」に選却る 15:49~17:55 47 18 伊勢新聞 平成 18年 5月 3日 世界開鎖性海域環境保全会議に英廈湾再生の研究成果を発表 18 朝日新聞 平成 18年 5月 3日 世界開鎖性海域環境保全会議に英廈湾再生の研究成果を発表 18 朝日新聞(夕刊) 平成 18年 5月 3日 「豊かな英廈湾」再生作戦 49 18 月刊環境ビジネス 平成 18年 5月 27日 「豊かな英廈湾」再生作戦 49 18 月刊環境ビジネス 平成 18年 5月 29日 成長企業のユニーク販売戦略(あの津技	33	17	電気新聞	平成 17年 12月 21日	自然繁殖工法によるアマモ場の再生
36 17 朝日新聞	34	17	日刊建設工業新聞	平成 17年 12月 21日	自然繁殖工法によるアマモ場の再生
ポジウム ポジウム ポジウム スポジウム スポジウム	35	17	日刊建設産業新聞	平成 17年 12月 21日	自然繁殖工法によるアマモ場の再生
37 17 伊勢新聞 平成 18年 2月 2日 英虞湾再生考えよう 1 1日志摩でシンポジウム 38 17 電気新聞 平成 18年 2月 9日 アマモ養殖に取り組む 39 17 読売新聞 平成 18年 2月 12日 英虞湾再生シンが開催 地元児童は環境劇で訴え 40 17 伊勢新聞 平成 18年 2月 12日 英虞湾再生シンが開催 地元児童は環境劇で訴え 41 17 朝日新聞 平成 18年 3月 26日 環境ルネサンス 英廣湾の再生 救え真珠の海 平成 18年 4月 20日 あの津坂所がペーパースラッジ焼却灰を使う干潟再生技術を開発 42 18 日経産業新聞 平成 18年 4月 25日 大の海 あの津坂所がペーパースラッジ焼却灰を使う干潟再生技術を開発 43 18 中部の辻木(Mugen): 平成 18年 4月 25日 大の池木干潟の力で自然の力で蘇らせる「英虞湾再生プロジェクト」 44 18 朝日新聞 平成 18年 4月 28日 志摩市立神小学校に自然環境力労者大臣表彰「自然ふれあい部門」に選出れる 表彰「自然ふれあい部門」に選出れる 18 前日放送TV「ムーブ」 平成 18年 4月 29日 志摩市立神小学校に自然環境力労者大臣表彰「自然ふれあい部門」に選出れる 15:49~17:55 47 18 伊勢新聞 平成 18年 5月 1日 真珠を救え! 英虞湾再生プロジェクト で成 18年 5月 1日 「豊かな英虞湾」再生作戦 48 18 朝日新聞(夕刊) 平成 18年 5月 27日 「豊かな英虞湾」再生作戦 49 18 月刊環境ビジネス 平成 18年 5月 29日 成長企業のユニーク販売戦略(あの津技	36	17	朝日新聞	平成 18年 2月 2日	
38 17 電気新聞 平成 18年 2月 9日 アマモ養殖に取り組む 平成 18年 2月 12日 英虞湾再生シンボ開催 地元児童は環境 劇で訴え 40 17 伊勢新聞 平成 18年 2月 12日 英虞湾再生シンボ開催 地元児童は環境 劇で訴え 41 17 朝日新聞 平成 18年 3月 26日 環境ルネサンス 英優湾の再生 教え真 珠の海 平成 18年 4月 20日 赤の海 本の海 大の海 中部の土木(Mugen): (社)日本土木工業協会中 市支部 平成 18年 4月 25日 大の北下汗渦の力で蘇らせる (大)日本土木工業協会中 市支部 平成 18年 4月 28日 志摩市立神小学校に自然環境が労者大臣 表彰 「自然ふれあい部門」に選出れる 18 朝日新聞 平成 18年 4月 29日 志摩市立神小学校に自然環境が労者大臣 表彰 「自然ふれあい部門」に選出れる 45 18 朝日放送TV「ムーブ」 15:49~17:55 平成 18年 5月 1日 真珠を教え!英虞湾再生プロジェクト 15:49~17:55 47 18 伊勢新聞 平成 18年 5月 3日 世界閉鎖性海域環境保全会議に英虞湾再生の研究成果を発表 年成 18年 5月 27日 「豊かな英虞湾」再生作戦 49 18 月刊環境ビジネス 平成 18年 5月 29日 成長企業のユニーク販売戦略(あの津技			- ++ +< pp		
38 17 電気新聞 平成 18年 2月 9日 アマモ養殖に取り組む 平成 18年 2月 12日 英虞湾再生シンボ開催 地元児童は環境 劇で訴え 製で訴え 製売がかべーパースラッジ焼却吹を 使う干湯再生技術を開発 平成 18年 4月 20日 あの津坊研がペーパースラッジ焼却吹を 使う干湯再生技術を開発 中部の土木(Mugen): (社)日本土木工業協会中部支部 平成 18年 4月 25日 大われた干潟の力で自然の力で蘇らせる 「英虞湾再生プロジェクト」 で成 18年 4月 28日 志摩市立神小学校に自然環境力労者大臣表彰 「自然ふれあい部門」に選却る 本野市立神小学校に自然環境力労者大臣表彰 「自然ふれあい部門」に選却る 18 朝日放送TV「ムーブ」 15:49~17:55 平成 18年 5月 1日 真珠を救え!英虞湾再生プロジェクト 15:49~17:55 平成 18年 5月 3日 世界閉鎖性海域環境保全会議に英属湾再生プロジェクト 生の研究成果を発表 48 朝日新聞 (夕刊) 平成 18年 5月 27日 「豊かな英虞湾」再生作戦 49 18 月刊環境ビジネス 平成 18年 5月 29日 成長企業のユニーク販売戦略(あの津技	37	17	伊勢新聞 	平成 18年 2月 2日	
39 17 読売新聞	38	17	 電気新聞		
割 日					
割日新聞 平成 18年 3月 26日 環境ルネサンス 英属湾の再生 教え真 珠の海 平成 18年 4月 20日 あの津技研がペーパースラッジ焼却灰を 使う干潟再生技術を開発 43 18		17	H76 7 G 391 1-3	1 2 1 2 7 3 12 11	·
41 17 朝日新聞 平成 18年 3月 26日 環境ルネサンス 英虞湾の再生 救え真 珠の海	40	17	伊勢新聞	平成 18年 2月 12日	英虞湾再生シンポ開催 地元児童は環境
株の海 株の海 中部の土木(Mugen): 平成18年4月20日 あの津技研がペーパースラッジ焼却灰を使う干潟再生技術を開発 中部の土木(Mugen): (社)日本土木工業協会中部支部 平成18年4月25日 失われた干潟の力で自然の力で蘇らせる「英虞湾再生プロジェクト」 平成18年4月28日 志摩市立神小学校に自然環境功労者大臣表彰 「自然ふれあい部門」に選ばれる 18 読売新聞 平成18年4月29日 志摩市立神小学校に自然環境功労者大臣表彰 「自然ふれあい部門」に選ばれる 18 朝日放送TV「ムーブ」 平成18年5月1日 真珠を救え!英虞湾再生プロジェクト 15:49~17:55 平成18年5月3日 世界閉鎖性海域環境保全会議に英虞湾再生プロジェクト 18 伊勢新聞 平成18年5月3日 世界閉鎖性海域環境保全会議に英虞湾再生の研究成果を発表 48 朝日新聞(夕刊) 平成18年5月27日 「豊かな英虞湾」再生作戦 49 18 月刊環境ビジネス 平成18年5月29日 成長企業のユニーク販売戦略(あの津技					
42 18 日経産業新聞 平成 18年4月20日 あの津技研がペーパースラッジ焼払灰を使う干潟再生技術を開発 使う干潟再生技術を開発 失われた干潟の力で蘇らせる 「英虞湾再生プロジェクト」 で 東虞湾再生プロジェクト」 43 18 中部の土木(Mugen): (社)日本土木工業協会中部支部 平成 18年4月25日 失われた干潟の力で自然の力で蘇らせる 「英虞湾再生プロジェクト」 44 18 朝日新聞 平成 18年4月28日 志摩市立神小学校に自然環境の労者大臣表彰 「自然ふれあい部門」に選ばれる 法彰 「自然ふれあい部門」に選ばれる 表彰 「自然ふれあい部門」に選ばれる 表彰 「自然ふれあい部門」に選ばれる 表彰 「自然ふれあい部門」に選ばれる 表彰 「自然ふれあい部門」に選ばれる 表彰 「自然ふれあい部門」に選ばれる 表彰 「自然ふれあい部門」に選ばれる 東成 18年5月1日 15:49~17:55 47 18 伊勢新聞 平成 18年5月1日 世界閉鎖性海域環境保全会議に英虞湾再生の研究成果を発表 「豊かな英虞湾」再生作戦 「豊かな英虞湾」再生作戦 「豊かな英虞湾」再生作戦 「豊かな英虞湾」再生作戦 「カース 18年5月29日」 成長企業のユニーク販売戦略(あの津技	41	17	朝日新聞	平成 18年 3月 26日	
43 18 中部の土木(Mugen): (社)日本土木工業協会中部支部 平成 18年4月25日 失われた干潟の力で自然の力で蘇らせる「英虞湾再生プロジェクト」 44 18 朝日新聞 平成 18年4月28日 志摩市立神小学校に自然環境が労者大臣表彰「自然ふれあい部門」に選ばれる 45 18 読売新聞 平成 18年4月29日 志摩市立神小学校に自然環境が労者大臣表彰「自然ふれあい部門」に選ばれる 46 18 朝日放送TV「ムーブ」 15:49~17:55 平成 18年5月1日 真珠を救え!英虞湾再生プロジェクト 15:49~17:55 47 18 伊勢新聞 平成 18年5月3日 世界閉鎖性海域環境保全会議に英厦湾再生の研究成果を発表 48 18 朝日新聞(夕刊) 平成 18年5月27日 「豊かな英虞湾」再生作戦 49 18 月刊環境ビジネス 平成 18年5月29日 成長企業のユニーク販売戦略(あの津技	40	10	口权变类如即	亚世 10年 4日 90日	
18	42	18	口紅性耒州闻	十成 16 年 4 月 20 日	
(社)日本土木工業協会中	43	18	中部の土木(Mugen):	平成 18年 4月 25日	
4418朝日新聞平成 18年4月28日志摩市立神小学校に自然環境功労者大臣表彰 「自然ふれあい部門」に選ばれる4518読売新聞平成 18年4月29日志摩市立神小学校に自然環境功労者大臣表彰 「自然ふれあい部門」に選ばれる4618朝日放送TV「ムーブ」 平成 18年5月1日 15:49~17:55平成 18年5月3日 世界閉鎖性海域環境保全会議に英虞湾再生の研究成果を発表4718伊勢新聞平成 18年5月3日 世界閉鎖性海域環境保全会議に英虞湾再生の研究成果を発表4818朝日新聞(夕刊)平成 18年5月27日 「豊かな英虞湾」再生作戦4918月刊環境ビジネス平成 18年5月29日 成長企業のユニーク販売戦略(あの津技					
表彰 「自然ふれあい部門」に選ばれる 表彰 「自然ふれあい部門」に選ばれる 平成 18年4月29日 志摩市立神小学校に自然環境功労者大臣 表彰 「自然ふれあい部門」に選ばれる 18 朝日放送TV「ムーブ」 平成 18年5月1日 真珠を救え!英虞湾再生プロジェクト			部支部		
45 18 読売新聞 平成 18年4月29日 志摩市立神小学校に自然環境加労者大臣表彰 「自然ふれあい部門」に選ばれる 46 18 朝日放送TV「ムーブ」 平成 18年5月1日 15:49~17:55 平成 18年5月1日 15:49~17:55 真珠を救え! 英虞湾再生プロジェクト 15:49~17:55 47 18 伊勢新聞 平成 18年5月3日 世界閉鎖性海域環境保全会議に英虞湾再生の研究成果を発表 48 18 朝日新聞(夕刊) 平成 18年5月27日 「豊かな英虞湾」再生作戦 49 18 月刊環境ビジネス 平成 18年5月29日 成長企業のユニーク販売戦略(あの津技	44	18	朝日新聞	平成 18年 4月 28日	
表彰 「自然ふれあい部門」に選ばれる 46 18 朝日放送TV「ムーブ」 平成 18年 5月 1日 真珠を救え! 英虞湾再生プロジェクト 15:49~17:55 47 18 伊勢新聞 平成 18年 5月 3日 世界閉鎖性海域環境保全会議に英虞湾再生の研究成果を発表 48 18 朝日新聞(夕刊) 平成 18年 5月 27日 「豊かな英虞湾」再生作戦 49 18 月刊環境ビジネス 平成 18年 5月 29日 成長企業のユニーク販売戦略(あの津技	45	10	共主	亚世 10年 4日 00日	7 11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
4618朝日放送TV「ムーブ」 15:49~17:55平成 18年 5月 1日 15:49~17:55真珠を救え!英虞湾再生プロジェクト 世界閉鎖性海域環境保全会議に英虞湾再 生の研究成果を発表4718伊勢新聞平成 18年 5月 3日 生の研究成果を発表世界閉鎖性海域環境保全会議に英虞湾再 生の研究成果を発表4818朝日新聞(夕刊)平成 18年 5月 27日 	45	18	祝兄利	平成 18 年 4 月 29日	
47 18 伊勢新聞 平成 18年 5月 3日 世界閉鎖性海域環境保全会議に英虞湾再生の研究成果を発表 48 18 朝日新聞(夕刊) 平成 18年 5月 27日 「豊かな英虞湾」再生作戦 49 18 月刊環境ビジネス 平成 18年 5月 29日 成長企業のユニーク販売戦略(あの津技	46	18	朝日放送TV「ムーブ」	平成 18年 5月 1日	
4818朝日新聞(夕刊)平成 18年 5月 27日 					
48 18 朝日新聞(夕刊) 平成18年5月27日 「豊かな英虞湾」再生作戦 49 18 月刊環境ビジネス 平成18年5月29日 成長企業のユニーク販売戦略(あの津技	47	18	伊勢新聞	平成 18年 5月 3日	
49 18 月刊環境ビジネス 平成 18年 5月 29日 成長企業のユニーク販売戦略(あの津技				正式 10 左 7 日 0 7 日	生の研究成果を発表
	48	18	朝日新闻(夕刊) 	平成 18年 5月 27日	「豊かな英虞湾」再生作戦
研)	49	18	月刊環境ビジネス	平成 18年 5月 29日	成長企業のユニーク販売戦略(あの津技
					研)

50	18	日刊工業新聞	平成 18年 6月 15日	芽はぐくむ研究室 九州大学本城凡夫 教授、 二枚貝で赤潮早期発見 LED
				使い発生防ぐ技術も
51	18	日本経済新聞(中部版)	平成 18年 6月 15日	製紙かすで干潟再生 あの津技研 へ ドロ固化剤開発
52	18	中日新聞	平成 18年 6月 15日	ヘドロの無害化技術開発 あの津技研
53	18	伊勢新聞	平成 18年 6月 15日	あの津技研 ヘドロの固化剤開発
54	18	読売新聞	平成 18年 6月 16日	製紙かすでヘドロを無害化 あの津技 研 固化剤開発
55	18	週刊文春	平成 18年 7月 6日	建設 人そして技術 24 英虞弯再生プロ ジェクト 真珠養殖の故郷を自然溢れ る海に還す。(広告記事)
56	18	読売新聞	平成 18年 7月 8日	環境ルネサンス 渚ものがたり5 養 殖の海、昔の姿に
57	18	建通新聞	平成 18年 7月 11日	遊歩道 豊かな「里海」復活に向けて
58	18	中日新聞	平成 18年 7月 18日	動き始めた有限責任事業組合 創業促 進の起爆剤担う(あの津技研)
59	18	月刊WEDGE 8月号	平成 18年 7月 20日	人にやさしい技術 196 ヘドロを固化 剤で無害化し海の浄化を目指すベンチャー (あの津技研)
60	18	日刊工業新聞	平成 18年 9月 26日	三重県の産業をもっと元気に 三重県 産業支援センター 英虞湾再生プロジェクト 豊かな海を取り戻す
61	18	読売新聞	平成 18年 10月 15日	環境浄化 魚介繁殖 アマモ場造成に成功 奥村さん 18日に技術研究発表
62	18	伊勢新聞	平成 18年 11月 28日	ベンチャー補助金1億円の交付先 あ の津技研ら3社に
63	18	読売新聞	平成 18年11月28日	ベンチャー補助金交付3社決まる 県 産業支援センター募集
64	18	中日新聞	平成 18年 11月 28日	あの津技研などにベンチャー補助金 県産業支援センター
65	18	毎日新聞	平成 18年 11月 29日	県ベンチャー補助金対象決まる
66	18	日本経済新聞	平成 18年 11月 29日	三重県 VB補助金 3社に ソフト開 発などに計1億円
67	18	日経産業新聞	平成 18年 12月 1日	三重県VB助成 ウィズダムウェブな ど3件
68	18	読売新聞	平成 19年 1月 13日	県、三重大学などの研究事業 英虞湾再 生、東京で発表
69	18	朝日新聞	平成 19年 2月 8日	英虞湾再生協設立ヘシンポ
70	18	読売新聞	平成 19年 2月 9日	英虞湾再生考えよう あす志摩でシン ポ
71	18	読売新聞	平成 19年 2月 11日	自然再生協議会を設立へ 英虞湾シン ポに200人が参加

72	18	中日新聞	平成	19年	2月	11 日	英虞湾再生を目指しシンポー志摩で講	
1 ~	10	1 1 3/1 1-3	1 7520	-0 1	~,,		演など	
73	18	全建ジャーナル	平成	19年	3月	号	建設業における有限責任事業組合(LL	
							P)に関する最近の動向	
74	18	ジュニアサイエンティス	平成	19年	3月	号	JST地域結集型共同研究事業 英虞	
		۲					湾を再生しよう	
75	19	中日新聞	平成	19年	4月	4日	クウェート湾岸浄化の参考に 先進	
							地・英虞湾を視察	
76	19	朝日新聞	平成	19年	4月	4日	クウェートから湾岸浄化視察団	
77	19	三重テレビ	平成	19年	4月	3日	クウェート政府、三重県地域結集型共同	
							研究事業の取り組みを視察	
78	19	読売新聞	平成	19年	8月	25日		
							庁長官代行	
79	19	中日新聞	平成	19年	8月	25日		
							ウェート高官が視察	
80	19	伊勢新聞	平成	19年	8月	25日		
							参考に」 クウェートの環境庁長官代行	
			 +	40./=		0.4.	志摩市長と懇談も	
81	19	三重テレビ	平风	19年	8月	24日	クウェート環境庁幹部が来県	
82	19	松阪ケーブルテレビ	平成	19年		27日		
						28日		
83	19	中日新聞	平成	19年	9月	17日		
							~世界が注目「里海」創生~	
84	19	NHKテレビ (津放場)	平成	19年	9月	18日	英虞湾再生、水質予測システム開発	
85	19	三重テレビ	平成	19年	9月	18日	環境再生事業の報告会	
							- 英虞湾再生プロジェクト -	
86	19	NHKテレビ (名古屋)		19年	10月	11日]
		ホットイブニング、他					会社・大学開発の最新技術を紹介	
87	19	読売新聞	平成	19年	10月	28日		
							湾保全役立てて~志摩で あす 29 日報	
		LN 07 L · · · · · · · · · · · · · · · · ·		40 =	40.5	04 🗔	告会、来場者に配布	
88	19	松阪ケーブルテレビ		19年			英虞湾再生 P J 報告会	
		志摩コミュニティ		19年				
00	10	チャンネル					 こ, ず 歯	
89	19	テレビ東京 	一八	19年	14月	∠4 □	シリーズ壊 海の宝石に迫る危機	
							何の玉口に足る厄饿	

(発表会)

No	年度		開催時期	開催場所	参加人数	備考
1	15	平成15年度 第1回研究中	平成15年9月1日	三重大学生物資源学部	60名	
		間報告会(内部)				
2	15	平成15年度 第2回研究中	平成15年12月4日	三重大学三翠ホール、三重大	98名	
		間報告会(内部)	~ 12月5日	学生物資源学部		
3	15	英虞湾の再生を考えるシ	平成16年2月14日	三重県南勢志摩県民局志摩	180名	
		ンポジウム2004		庁舎		
4	16	平成16年度 第1回研究中	平成16年8月30日	三重大学三翠ホール	149名	
		間報告会(内部)	~ 8月31日			
5	16	平成16年度研究成果発表	平成16年11月16日	アスト津アストホール	184名	
		会				
6	16	英虞湾の再生を考えるシ	平成17年2月19日	阿児町商工会館	196名	
		ンポジウム2005				
7	17	平成 17 年度研究成果発表	平成 17年 11月 17日	三重県総合文化センター小	173名	
		会		ホール		
8	17	平成 17 年度研究中間報告	平成 17年 11月 18日	三重県総合文化センター視	56名	
		会		聴覚室		
9	17	英虞湾の再生を考えるシ	平成 18年 2月 11日	志摩市阿児アリーナ	274名	
		ンポジウム 2006				
10	18	平成 18 年度研究成果発表	平成 18年 10月 18日	ホテルグリーンパーク津	130名	
		会				
11	18	平成 18 年度研究中間報告	平成 18年 10月 19日	アスト津アストホール	46名	
		会(内部)				
12	18	沿環連ジョイントシンポ	平成 19年 1月 13日	日本大学理工学部 1 号館	137名	
		ジウム				
13	18	英虞湾の再生を考えるシ	平成 19年 2月 10日	阿児アリーナ(志摩市)	207名	
		ンポジウム				
14	19	平成 19 年度研究成果発表	平成 19年 9月 18日	ホテルグリーンパーク津	180名	
		会				
15	20	志摩市成果報告会	平成 19年 10月 29日	志摩市 阿児ライブラリー	200名	

(団体訪問)

No	年度	訪問時期	団 体 名	訪問者数	備考
1	15	平成15年8月26日	三重県議会常任委員会	8名	
2	15	平成15年10月15日	大分県蒲江町議会	7名	
3	15	平成15年10月15日	広島県	5名	
4	15	平成15年10月21日	香川県議会	3名	
5	15	平成15年10月23日	熊本県議会政務調査会	15名	
6	15	平成16年2月12日	万国博覧会協会	2名	
7	15	平成16年2月19日	長崎県水産試験場	4名	
8	16	平成16年6月9日	三重県教職員組合志摩郡社会科部会	5名	
9	16	平成16年8月5日	群馬工業高等専門学校	4名	
10	16	平成16年10月27日	佐賀県議会 有明海・玄海再生、環境特別委員会	15名	
11	17	平成 17年6月 6日	尾鷲市役所(環境課)	2名	
12	17	平成 17年6月 8日	三重県環境森林部(環境活動室)	4名	
		6月23日			
13	17	平成 17年 6月 22日	志摩市自然学校	2名	
14	17	平成 17年 8月 10日	三重県教育委員会事務局(高等学校教諭含む)	7名	
15	17	平成 17年 8月 24日	国土交通省九州地方整備局中津港事務所	2名	
16	17	平成 17年 10月 17日	経済産業省中部経済産業局資源エネルギー環境部	2名	
17	17	平成 17年 10月 31日	環境省中部地方環境事務所	2名	
18	17	平成 17年 11月 11日	(社)日本水産資源保護協会	3名	
19	17	平成 18年 1月 13日	みずほ情報総研(株)環境資源エネルギー部	2名	
20	17	平成 18年 2月 7日	志摩市役所産業振興部、生活環境部	2名	
21	17	平成 18年 2月 9日	志摩市役所	3名	
22	17	平成 18年 2月 9日	日本水産資源保護協会	2名	
23	17	平成 18年 3月 6日	日本経済社関係企業	2名	
24	18	平成 18年 4月 19日	(株)東京久栄環境事業部	5名	
		~ 20 日			
25	18	平成 18 年 4月 19日	朝日放送TV	3名	
26	18	平成 18年 5月 17日	志摩市立神小学校	4名	
27	18	平成 18 年 6 月 1 日	三重県農水商工部水産基盤整備室、三重県伊勢県民センタ	4名	
			_		

28	18	平成 18年 6月 12日	国立環境研究所、各自治体保健環境研究所	6名	
		~ 13 日			
29	18	平成 18年 6月 23日	志摩市役所	6名	
30	18	平成 18年 8月 8日	金沢大学経済学部地域経済ゼミナール「環境再生の技術開	16名	
			発と地域社会実験に関する現地調査」	ТОП	
31	18	平成 18年 8月 31日	経済産業省 中部経済産業局環境リサイクル課「事業概要	4名	
			の聞き取り」		
32	18	平成 18 年 9月 14日	伊勢湾総合対策協議会「英虞湾環境再生に関する取り組	20名	
			み」		
33	18	平成 18年 9月 28日	北海道伊達市議会「英虞湾環境再生に関する行政視察」	11名	
34	18	平成 18年 11月 14日	天然資原に開発利用に関する日米会議(UJNR)水産増	30名	
			養殖専門部会メンバー		
35	18	平成 18年 12月 18日	株式会社ケミテック	3名	
36	18	平成 18年 2月 20日	中部経済産業局、他「廃瓦を利用した底質改良剤の試験結	3名	
			果報告」		
37	18	平成 18年 3月 2日	(株)日本海洋生物研究所	2名	
38	18	平成 18年 3月 16日	みずは総研、中部経済産業局他「閉鎖性海域保全対策の費	5名	
			用対効果調査に関する資料検討」、		
			「酸化チタン添加廃瓦の底質改良材としての利用に関す		
			る技術相談」		
39	18	平成 18年 3月 17日	豊橋技術科学大学,神鋼電機株式会社	3名	
40	19	平成 19年 4月 3日	クウェート環境庁局長、局長代行	2名	
41	19	平成 19年 4月 16日	クウェート環境庁実務者	4名	
42	19	平成 19年 4月 17日	伊勢農林水産商工環境事務所 水産室	2名	
43	19	平成 19年 5月 22日	ナンカイマリン 川口氏他	5名	
44	19	平成 19年 6月 15日	(株)日テレ アックスオン	3名	
45	19	平成 19年 6月 21日	(株)日テレ アックスオン	4名	
46	19	平成 19年 7月 20日	海洋生態(株)	2名	
47	19	平成 19年 8月 24日	クウェート政府環境庁長官、国際交流サービス協会、(独) 日本貿易振興機構	5名	

48	19	平成 19年 10月 12日	養殖研究所生産システム部増養殖研究グループ 日向野 主任研究官	6名	
49	19	平成 19年 10月 23日	文部科学省佐伯戦略官、長沢主査	2名	
50	19	平成 19年 10月 24日	IOI 事務局長グンナゲレンバーグ夫妻 IOI 日本支部事務 局長 大塚女史 他1名	4名	
51	19	平成 19年 10月 30日	三重県農水商工部水産基盤室,伊勢農林水産商工環境事務所水産室	4名	
52	19	平成 19年 11月 1日	東電環境エンジニアリング(株) 大竹常務取締役、 環境事業部 坂間副部長	2名	
53	19	平成 19年 12月 4日	志摩市立安乗中学校	2名	
54	19	平成 19年 12月 5日	カネコ建設	2名	
55	19	平成 19年 12月 6日	三重県農水商工部水産室	4名	
56	19	平成 19年 12月 11日	(株)イデア	2名	

他事業への展開、実用化、商品化、起業化実績

- 1.他事業への橋渡し実績
- (1) 文部科学省関連事業

事業名:重点地域研究開発促進プログラム(研究開発資源活用型) 平成 19 年度採択

資金を出す機関:(独)科学技術振興機構

予算規模: 552,306 千円 (JST 253,871 千円、地域負担、298,435 千円: H19 年度~H21

年度)

事業期間:平成19年度~平成21年度

もとになったサブテーマ名:里海の物質循環

もとになった小課題名:アコヤガイ高生残系統の作出

もとになったサブテーマリーダー

三重大学大学院生物資源学研究科 教授 前川行幸

もとになった研究従事者

三重大学大学院生物資源学研究科 教授 古丸 明

財団法人三重県産業支援センター 雇用研究員 石川 卓

特許:有

「アコヤガイの閉核力の測定方法およびそれを用いたアコヤガイの養殖管理」 特許出願番号・出願日:特願 2005-337179、平成17年11月22日、

発明者: 古丸 明(三重大学)、富永ちひろ(元 三重県産業支援センター) 林政 博(三重県科学技術振興センター)

参加研究機関(企業含む):

三重県科学技術振興センター、三重大学、九州大学、東北大学、近畿大学、 (独)水産総合研究センター養殖研究所、(財)三重県水産振興事業団、

志摩市内10地区の真珠研究会

研究概要:アコヤガイの閉核力指標を中核に、ミトコンドリア活性、近赤外線を用いた体成分分析、陸上水槽による真珠形成制御技術の開発を統合し、農林水産分野としては極めて短期間に次世代養殖技術とスーパーアコヤガイを実用化し、無キズ・真円かつ真珠層が厚く、光沢の良い花珠等高級真珠の超高効率生産を実現する。

事業名:伊勢湾再生研究プロジェクト

資金を出す機関:文部科学省

予算規模:28,000千円(平成19年度) 事業期間:平成19年度~平成21年度

もとになったサブテーマ名: 干潟・藻場の造成と高機能化、里海の物質循環、環境動態シミュ

レーションモデルと予測システム

もとになった小課題名: -

もとになったサブテーマリーダー

三重大学大学院生物資源学研究科 教授 前川行幸

四日市大学環境情報学部 教授 千葉 賢

もとになった研究従事者

三重大学大学院生物資源学研究科 教授 前川行幸、他

特許:無

参加研究機関(企業含む):三重大学、四日市大学、三重県

研究概要:伊勢湾再生研究プロジェクトは、伊勢湾及び周辺陸域の環境保全と漁業生産活動が 調和した新たな環境を創生するため、三重大学、四日市大学、三重県が連携し、環 境系、生物系、社会系の三つのグループで構成される伊勢湾再生研究プロジェクト 推進会議を立ち上げ、環境保全と漁業資源の回復、地域の再開発・活性化を目的と した研究を行い、その成果を行政施策に反映させるとともに、全国の半閉鎖性内湾 域の環境再生事業に応用可能な研究成果を生み出すものである。 事業名:技術移転センター支援事業

良いシーズをつなぐ知の連携システム<つなぐしくみ> 平成 19年度採択

資金を出す機関:(独)科学技術振興機構、

予算規模:3,000千円 事業期間:平成19年度

もとになったサブテーマ名:干潟・藻場の造成と高機能化

もとになった小課題名:細胞培養によるアマモの大量増殖技術の開発

もとになったサブテーマリーダー

三重大学大学院生物資源学研究科 教授 前川行幸

もとになった研究従事者

三重県科学技術振興センター農業研究部 主任研究員 橋爪不二夫、同 山本有子

特許:有

発明の名称「アマモ類の無菌培養法および該方法により作出されるアマモ類」 出願番号・出願日:特願2004-097414(特開2005-278496)、平成16年3月30日

参加研究機関(企業含む):三重県科学技術振興センター

研究概要:既存のアマモ場から多量の種子を収奪することなく、新規のアマモ場を造成するという最終的な目的を達成するためには、出願した新技術を利用し、無菌的に生育したアマモ類を大量に増殖させる方法を開発する必要がある。この事業では、無菌のアマモ類の幼植物体を材料として、増殖体の誘導に適した各種培養環境条件を検討する。

事業名:地域イノベーション創出総合支援事業

重点地域研究開発推進プログラム < シーズ発掘試験 > 平成 18 年度採択

資金を出す機関:(独)科学技術振興機構

予算規模:2,000千円 事業期間:平成18年度

もとになったサブテーマ名:干潟・藻場の造成と高機能化

もとになった小課題名:細胞培養によるアマモの大量増殖技術の開発

もとになったサブテーマリーダー

三重大学大学院生物資源学研究科 教授 前川行幸

もとになった研究従事者

三重県科学技術振興センター農業研究部 主任研究員 橋爪不二夫、同 山本有子

特許:有

発明の名称:アマモ類の無菌培養法および該方法により作出されるアマモ類 出願番号・出願日:特願2004-097414(特開2005-278496)、平成16年3月30日

参加研究機関(企業含む):三重県科学技術振興センター

研究概要:コアマモの藻場造成には大量の種苗が必要となるため、種子の収奪を伴わない、無性的な増殖技術、すなわちバイテク技術によるクローン種苗生産技術が切望されている。このような種苗増殖法は、コアマモについては報告されていない。 そこで、出願した新技術を利用し、コアマモを組織培養によって種苗増殖する基礎的条件を検討した。

(2)経済産業省関連事業

事業名:異分野連携新事業分野開拓計画、平成 19 年度採択

資金を出す機関: -

予算規模: -事業期間: -

もとになったサブテーマ名:干潟・藻場の造成と高機能化

もとになった小課題名:固化造粒技術の実用化試験、浚渫固化物の利用技術の開発

(分担テーマ:固化造粒物の安全性の確認・評価、

ペーパースラッジ焼却灰を主成分とする固化剤の利用技術の開発)

もとになったサブテーマリーダー

三重大学大学院生物資源学研究科 教授 前川行幸

もとになった研究従事者

株式会社あの津技研 代表取締役 加藤忠哉、専務取締役 江草清行

特許:有

発明の名称:軟泥土壌用粉末固化剤及びその製造方法

特許出願番号: 2006-287581 出願日: 平成 18 年 10 月 31 日

(平成19年9月に(株)あの津技研に変更)

参加研究機関(企業含む):

株式会社あの津技研、株式会社研電社

事業概要:

高効率な濁水浄化を実現するために、(株)あの津技研が開発・製造した製紙スラッジ 焼却灰を主体とする無機系凝集固化剤と(株)研電社が開発・製造した目詰まりしない 特殊な固液分離装置をセットで販売する事業である。

この無機系凝集固化剤と固液分離装置を活用することにより、固化処理物の減容化が可能となり、さらに、減容化による排出量削減にもつながり環境にも寄与する。 濁水・汚泥浄化処理市場にターゲットを絞り、固液分離装置が可搬可能なコンパクトな 装置であることから、1日当たりの排出量が50m³程度の水産加工場、スーパーマーケット等の中小規模事業所や土木建設業界等に展開する。

(3)都道府県単独事業

事業名:閉鎖性海域の再生プログラム 平成 18 年度採択

資金を出す機関:三重県

予算規模:平成 19 年度 22,900 千円 事業期間:平成 19 年度~平成 22 年度

もとになったサブテーマ名:干潟・藻場の造成と高機能化、里海の物質循環、環境動態シ

ミュレーションモデルと予測システム

もとになった小課題名: -

もとになったサブテーマリーダー:

三重大学大学院生物資源学研究科 教授 前川行幸、

四日市大学環境情報学部 教授 千葉 賢

もとになった研究従事者:

三重県科学技術振興センター水産研究部 総括研究員 山形陽一

主任研究員 土橋靖史、清水康弘、 増田健研究員 国分秀樹、渥美貴史、奥村宏征

三重大学大学院生物資源学研究科 教授 前川行幸、

四日市大学環境情報学部 教授 千葉 賢

特許:無

参加研究機関(企業含む):三重県科学技術振興センター、三重大学、四日市大学

研究概要:閉鎖性海域を豊かな海に再生するためには、生態系の回復(海の生物の種類・量の増加)を促進することが必要であるため、干潟・藻場の回復再生技術や赤潮の発生防止技術の開発および底泥の堆積過程の解明等について、産学官の連携により取り組む。

沿岸遊休地の有効利用などによる生物生産性の高い干潟・藻場の回復再生技術の開発とともに、既設干潟・藻場の長期的変化の調査を行う。

自然の自己修復機能を利用した赤潮の発生防止技術の開発とともに、生態系に多大な被害を与えている貧酸素水塊注)2の発生原因である底泥の堆積過程の調査を進める。

環境汚染が深刻化している英虞湾における干潟・藻場・浅場などの自然浄化機能について研究し、新たな環境を創生するため、沿岸環境創生技術の開発、 底質改善技術の開発等に取り組む。 事業名:三重県ベンチャー総合補助金、平成 18 年度採択

資金を出す機関:財団法人三重県産業支援センター

予算規模: 30,000 千円

事業期間:平成19年2月~平成20年1月(1年間)

もとになったサブテーマ名:干潟・藻場の造成と高機能化

もとになった小課題名:固化造粒技術の実用化試験、浚渫固化物の利用技術の開発

(分担テーマ: 固化造粒物の安全性の確認・評価、

ペーパースラッジ焼却灰を主成分とする固化剤の利用技術の開発)

もとになったサブテーマリーダー

三重大学大学院生物資源学研究科 教授 前川行幸

もとになった研究従事者

株式会社あの津技研 専務取締役 江草清行

特許:有

発明の名称:軟泥土壌用粉末固化剤及びその製造方法

特許出願番号・出願日:特願 2006-287581 平成 18年 10月 31日

(平成19年9月に(株)あの津技研に変更)

参加研究機関(企業含む):

(株)あの津技研

事業概要:

高効率な濁水浄化を実現するために、開発・製造した製紙スラッジ焼却灰を主体とする 無機系凝集固化剤を製造・販売する。

この無機系凝集固化剤を活用することにより、固化処理物の減容化が可能となり、さらに、減容化による排出量削減にもつながり環境にも寄与する。

濁水・汚泥浄化処理市場にターゲットを絞り、1日当たりの排出量が50m³程度の水産加工場、スーパーマーケット等の中小規模事業所や土木建設業界等に展開する。

事業名: 東紀州地域の水産業活性化対策事業 ヒロメ複合型養殖振興事業 平成 19年度採択

資金を出す機関:三重県

予算規模:2,200千円(平成19年度、該当課題のみ)

事業期間:平成19年度~平成22年度

もとになったサブテーマ名:未利用海藻等の有効利用技術の開発

もとになった小課題名:アマモ等の有効利用技術の開発

もとになったサブテーマリーダー

三重大学大学院生物資源学研究科 教授 前川行幸

もとになった研究従事者

三重県科学技術振興センター工業研究部

主幹研究員 藤原孝之、栗田 修、苔庵泰志

特許:無

参加研究機関 (企業含む):三重県尾鷲農林水産商工事務所、三重県水産振興事業団尾鷲栽培 漁業 センター、他

研究概要: 東紀州地域に生息する海藻「ヒロメ」を養殖・利用することにより、地域産業の活性化、漁場環境の改善、水産業における雇用機会増加・多角経営化を図る。その一環として、上記小テーマの研究成果を応用し、ヒロメの機能性成分の分析や利用・加工技術の検討を行う。

事業名:三重県沿岸漁場整備事業 平成 15 年度採択

資金を出す機関:三重県

予算規模:平成 15 年度: 73,920 千円

事業期間:平成15年度

もとになったサブテーマ名:藻場造成技術の開発

もとになった小課題名:アマモ場造成技術の開発

アマモ移植方法の開発及び移植試験

アマモの大規模移植実験による効率的移植方法の検討

もとになったサブテーマリーダー

三重大学大学院生物資源学研究科 教授 前川行幸

もとになった研究従事者

三重大学大学院生物資源学研究科 教授 前川行幸

三重大学生物資源学部助教授 倉島 彰

中部電力(株)技術開発本部 大松 秀史

中部電力(株)技術開発本部 清水 浩視

中部電力(株)技術開発本部 濱田 稔

中部電力(株)技術開発本部 中西 嘉人

大成建設(株)技術センター 高山 百合子

大成建設(株)技術センター 上野 成三

特許:無

参加研究機関:三重大学

研究概要:平成15年度に津市御殿場沖で、面積が大きく減少している伊勢湾のアマモ場の 復活を目指し、ゾステラマットによる造成技術を用いたアマモ場造成を行い、

その後のモニタリング調査を行っている。

事業名:地域水産資源の有効活用研究事業 平成 14 年度採択

資金を出す機関:三重県

予算規模:平成 15 年度 4,804 千円、平成 16 年度 2,788 千円

事業期間:平成15年度~平成16年度

もとになったサブテーマ名:環境調和型養殖技術の開発

もとになった小課題名:アコヤガイの貝殻・内蔵の有効利用技術の開発

もとになったサブテーマリーダー:

三重県科学技術振興センター水産研究部 主幹研究員 広瀬和久(平成14年度当時) もとになった研究従事者:

三重県科学技術振興センター水産研究部 主幹研究員 広瀬和久(平成14年度当時)

水産研究部 主任研究員 清水康弘

林業研究部 総括研究員 並木勝義

特許:有

1 発明の名称:螺鈿装飾品及びその製造方法、 特許第 3769638

2 発明の名称:アコヤ貝殻からの吸着能付与成形体の製造方法

出願番号・出願日:特願 2004 - 089831、平成 16年3月31日

参加研究機関(企業含む): 三重県科学技術振興センター、三重大学、御木本製薬(株)

研究概要:

志摩地域の真珠養殖に伴い排出されるアコヤ貝の貝殻や貝肉は野積みや埋立て処分されているが、有効利用が求められている。そこで、貝殻については粉砕・塩分除去・有機物除去技術の開発、カルシウム製剤としての医薬品原料の開発、石灰質肥料の開発、真珠光沢を利用した装飾材の開発、環境浄化材料の開発を行う。貝肉については、化粧品原料および機能性食品としての利用技術を研究する。

(4)その他事業

事業名:広島県循環型社会形成推進機能強化事業 平成 18 年度採択

資金を出す機関:NPO法人広島循環型社会形成推進機構

予算規模:680万円

事業期間:平成18年度~平成19年度

もとになったサブテーマ名:里海の物質循環 もとになった小課題名:酸素補給技術の開発

もとになったサブテーマリーダー

三重大学大学院生物資源学研究科 教授 前川行幸 もとになった研究従事者(所属、役職、氏名) 広島大学大学院生物圏科学研究科 教授 山本民次 (財)三重県産業支援センター 雇用研究員 原口浩一

特許:無

参加研究機関(企業含む):広島大学、広島工業大学、(株)カンサイ、山陽工営(株), 東和科学(株)、みつぎ産業(株)、(株)オガワエコノス、他

研究概要:鉄鋼スラグをリサイクル素材とみなし、これを担体として微細藻を付着させることで、スラグがもつ中和作用と硫化物固定機能に加え、微細藻の光合成による酸素放出により、有機泥の浄化を図る。また、その製品化を目指す.

2.実用化されたもの

製品(技術)概要:マルチスキャンソナーを用いたアマモ群落の測定手法の開発 マルチスキャンソナーで得られたデータをGISソフトにより三次元で描写し、 実際に現場で潜水により確認したデータと照合することにより、走査データから面 積、容積を解析することが可能となるソフトを開発した。

もとになったサブテーマ名:里海の物質循環

もとになった小課題名:干潟・藻場における物質循環の解明

もとになったサブテーマリーダー

三重大学大学院生物資源学研究科 教授 前川行幸 もとになった研究従事者

古野電気株式会社 HS開発担当部長 森松秀治 "企画担当課長 浅海茂

特許:無

参加研究機関:

企業:古野電気(株)

製品(技術)概要:英虞湾の自動モニタリングシステム

・英虞湾に観測ブイを5カ所(湾口、湾央、湾奥、船越、神明)に設置し、自動昇降水質測定システムにより、水質(水温、塩分、溶存酸素、濁度、クロロフィル)を1時間毎に1回、海面から海底まで1m間隔でデータを自動測定するとともに、湾央の流向、流速のデータについても毎時20分間隔でADCP流速計により深度別の東西方向(湾内、湾口方向)の流速・流量を観測している。これらの観測結果を、パソコンのホームページや携帯電話(iモード)で公開している。

もとになったサブテーマ名:モニタリング技術の開発 もとになった小課題名:自動モニタリングシステムの開発

もとになったサブテーマリーダー(所属、役職、氏名)

四日市大学環境情報学部 教授 千葉 賢

もとになった研究従事者(所属、役職、氏名)

四日市大学環境情報学部 教授 千葉 賢 大成建設(株) 上野 成三

(財)三重県産業支援センター 雇用研究員 湯浅 城之

特許:無

参加研究機関:四日市大学、(財)三重県産業支援センター

企業:大成建設(株)

製品(技術)概要:螺鈿装飾品及びその製造方法

ガラス工房アトリエLeaf等に、アコヤガイ貝殻の真珠層を活用した螺鈿装飾品の 試作品を委託して製作したことにより、インテリア用品等製造事業所で螺鈿装飾品の製 造が可能であることが確認できた。注文があれば商品化は可能である。

もとになったサブテーマ名:環境調和型養殖技術の開発

もとになった小課題名:アコヤガイの貝殻・内蔵の有効利用技術の開発

もとになったサブテーマリーダー:

三重県科学技術振興センター水産研究部 主幹研究員 広瀬和久(平成 14 年度当時) もとになった研究従事者:

三重県科学技術振興センター水産研究部 主幹研究員 広瀬和久(平成 14 年度当時) 水産研究部 主任研究員 清水康弘 林業研究部 総括研究員 並木勝義

特許: 有 発明の名称「螺鈿装飾品及びその製造方法」 特許第 3769638

参加研究機関:三重県科学技術振興センター

企業:三重額縁(株)

製品(技術)概要:海底酸素消費量測定装置

海底近傍の酸素消費速度を自動で1日16回測定し、昼夜の酸素消費速度の差から底生微 細藻の生産力を見積もることができる。本装置は、自動昇降装置によってベルジャーの閉 鎖と開放の切り替えを行ない、ベルジャー内部には蛍光式溶存酸素計、電気伝導度、水温 計、および内部の海水を攪拌する水中ポンプが取り付けられている。酸素消費速度の算出 には、通常、閉鎖開始から10分間の溶存酸素濃度に最小自乗法で直線を当てはめて行う。

もとになったサブテーマ名:里海の物質循環

もとになった小課題名:酸素補給技術の開発

もとになったサブテーマリーダー

三重大学大学院生物資源学研究科 教授 前川行幸 もとになった研究従事者

(財)三重県産業支援センター 雇用研究員 原口浩一 広島大学大学院生物圏科学研究科 教授 山本民次

特許:有

発明の名称:「海底酸素消費量測定装置」

出願番号・出願日:特願2005-310337、平成17年10月25日

参加研究機関:無

企業:アレック電子(株)

製品(技術)概要:アコヤガイ洗浄排水処理装置

メンテナンスのいらないフィルター方式の浄化技術として、H18 年度に FRP 製の外箱にステンレス金網製内篭、ナイロン製排水ネットを組み合わせた濾過方式の処理装置を(株)ジャパンテクノメイトと共同で開発した。注文があれば商品化は可能である。

もとになったサブテーマ名:里海の物質循環

もとになった小課題名:アコヤガイ洗浄排水等処理技術の開発

もとになったサブテーマリーダー:

三重大学大学院生物資源学研究科 教授 前川行幸

もとになった研究従事者:

三重県科学技術振興センター水産研究部 総括研究員 山形 陽一

三重県科学技術振興センター水産研究部 研究員 奥村 宏征

三重県科学技術振興センター水産研究部 研究員 渥美 貴史

(株)ジャパンテクノメイト 山本 修

特許:無

参加研究機関:三重県科学技術振興センター

企業:(株)ジャパンテクノメイト

3.商品化されたもの

商品名:アゴクリーン P

商品概要:ペーパースラッジ焼却灰を主原料とした、汚泥等に使用する固化剤 紙の製紙過程で発生するかす(ペーパースラッジ)の焼却灰の水和反応を補強するシリカ、 石膏、アルミナ等を混ぜて作り、焼却灰に含まれるゼオライト等の作用により汚泥の臭いも 除去できる。

ヘドロを干潟再生する従来技術の五分の一程度のコストで済み、河川改修時の濁水処理やのり面処理、トンネル工事の際の泥水の脱水固化などへの利用も見込まれる。

もとになったサブテーマ名:干潟・藻場の造成と高機能化

もとになった小課題名:固化造粒技術の実用化試験、浚渫固化物の利用技術の開発 (分担テーマ:固化造粒物の安全性の確認・評価、

ペーパースラッジ焼却灰を主成分とする固化剤の利用技術の開発)

もとになったサブテーマリーダー

三重大学大学院生物資源学研究科 教授 前川行幸

もとになった研究従事者(所属、役職、氏名)

(株)あの津技研 江草清行、 (株)大正印写 佐原一誠、 濱義明、 サンエー化学(株)水田登太郎、日本酢ビ・ポバール(株)松岡敏文、小原田明信

特許:有

発明の名称:軟泥土壌用粉末固化剤及びその製造方法

特許出願番号・出願日:特願 2006-287581 平成 18年 10月 31日

(平成19年9月に(株)あの津技研に変更)

参加研究機関:無

企業: (株)あの津技研、㈱大正印写、サンエー化学(株)、日本酢ビ・ポバール(株)

販売実績(販売個数、売上金額等):3,115千円(平成18年度)

商品名: COMPACT - CTW

商品概要:汚濁防護機能付き水分・塩分センサー

従来型の塩分センサーは生物付着の影響により約1週間の連続計測で観測精度が著しく低下する問題があったが、本研究によりワイパー式の付着生物防止装置を付加した塩分センサーを開発した。

もとになったサブテーマ名:モニタリング技術の開発

もとになった小課題名:ワイパー式塩分センサーの開発

もとになったサブテーマリーダー(所属、役職、氏名)

四日市大学環境情報学部 教授 千葉 賢

もとになった研究従事者 大成建設(株) 上野成三

アレック電子(株) 小梨昭一郎、杜葉 弘昭

特許:有

発明の名称:「電気伝導度センサー」

出願番号・出願日: 特願2004 - 215414、平成16年7月23日

登録番号・登録日:特許3899352、平成19年1月5日

企業:アレック電子(株)

販売実績(販売個数、売上金額等):180台、1500万円

商品名:人工中層海底

商品概要:増養殖を行っている閉鎖性内湾の海底は有機物負荷のためしばしば悪化する。そこで、酸素のある中層に生息基盤を設置することで、貝類からの沈降有機物を捕捉し、これらを好気的に分解させる。

もとになったサブテーマ名:里海の物質循環

もとになった小課題名:人工中層海底による環境改善システムの開発

もとになったサブテーマリーダー

三重大学大学院生物資源学研究科 教授 前川行幸

もとになった研究従事者

海洋建設株式会社 研究調査部部長 片山貴之海洋建設株式会社 営業部部長,田原実

(財)三重県産業支援センター 雇用研究員 原口浩一 広島大学大学院生物圏科学研究科 教授 山本民次

特許:有

発明の名称:有機物の分解装置およびそれを用いた貝の養殖方法

出願番号・出願日:特願2005-343676、平成17年11月29日

企業:海洋建設株式会社

販売実績(販売個数、売上金額等)

人工中層海底としての販売実績はない。

(参考)

JFシェルナース(魚礁、増殖礁、着底基質、他)としての販売実績

(内海域の漁場保全事業)

採用事業名:水産基盤整備事業(漁場環境保全創造事業)など

平成 18 年度 事業県 広島県、香川県、長崎県 77 基

販売額:6,000万円

4. 起業化されたもの(ベンチャー企業等)

企業名: (株)あの津技研

企業概要:ペーパースラッジ焼却灰を主原料とした固化剤の開発・販売を行う。

もとになったサブテーマ名:干潟・藻場の造成と高機能化

もとになった小課題名:固化造粒技術の実用化試験、浚渫固化物の利用技術の開発 (分担テーマ:固化造粒物の安全性の確認・評価、

マ・回忆 足位物の女主性の確認・評価、

ペーパースラッジ焼却灰を主成分とする固化剤の利用技術の開発)

もとになったサブテーマリーダー

三重大学大学院生物資源学研究科 教授 前川行幸

もとになった研究従事者(所属、役職、氏名)

(株)片山化学工業研究所 江草清行、 若尾芳治、深江邦弘、佐伯恭

(株)大正印写 佐原一誠、濱義明

サンエー化学(株) 水田登太郎

日本酢ビ・ポバール(株) 松岡敏文、小原田明信

特許:有

発明の名称:軟泥土壌用粉末固化剤及びその製造方法

出願番号・出願日: 特願 2006-287581 平成 18 年 10 月 31 日

(平成19年9月に(株)あの津技研に変更)

参加研究機関:無

販売実績(販売個数、売上金額等):35,042千円(平成18年度)

企業名:東紀州環境システム有限責任事業組合

企業概要: (株)あの津技研、紀州製紙(株) サンエー化学(株) (株)東産商の4社を組合員とする、ペーパースラッジ焼却灰を主原料とした固化剤の製造・販売を行う。

もとになったサブテーマ名:干潟・藻場の造成と高機能化

もとになった小課題名:固化造粒技術の実用化試験、浚渫固化物の利用技術の開発 (分担テーマ:固化造粒物の安全性の確認・評価、

ペーパースラッジ焼却灰を主成分とする固化剤の利用技術の開発)

もとになったサブテーマリーダー

三重大学大学院生物資源学研究科 教授 前川行幸 もとになった研究従事者(所属、役職、氏名)

㈱あの津技研 江草清行、 サンエー化学㈱ 水田登太郎

特許:有

発明の名称:軟泥土壌用粉末固化剤及びその製造方法

出願番号・出願日: 特願 2006-287581 平成 18 年 10 月 31 日

(平成19年9月に(株)あの津技研に変更)

参加研究機関:無

販売実績(販売個数、売上金額等):2,887千円(平成18年度)